

平成 25 年度

紀 要

第 17 号

仙台市精神保健福祉総合センター

はじめに

仙台市精神保健福祉総合センター（はあとぼーと仙台）の紀要第17号をお届けします。今号には、当センターにおける研究・報告としてまとめられた論文と、平成25年度の事業概要を掲載しております。当センターの活動に御協力いただきました関係各位に、改めて深く感謝致します。

さて、平成25年度は、我が国の精神医療保健福祉に大きな動きがありました。平成25年6月には、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）の一部を改正する法律が成立・公布され、この中には、保護者に関する規定の削除、医療保護入院の見直し、医療保護入院者の退院促進の制度化などが盛り込まれました。さらに、同法の平成26年4月施行に先立ち、同年3月に、精神障害者の医療の提供を確保するための指針が公布されています。この指針は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本理念に沿って、精神障害者に対する保健医療福祉に携わる全ての関係者が目指すべき方向性を示すものとして策定されたものです。また、不適切な飲酒によるアルコール健康障害が、本人の健康問題のみならず家族にも深刻な影響を与え、飲酒運転・暴力・虐待・自殺などの様々な問題にも密接に関連することから、その対策を総合的かつ計画的に推進する平成25年12月にアルコール健康障害対策基本法が成立しました。こうした社会状況の中で、当センターが事務を担っている精神医療審査会、精神障害者退院促進支援事業をはじめとする地域支援、アルコール問題対策連絡会議・家族ミーティング・高校生への啓発活動・研修講座など一連のアルコール問題対策事業も、一層、重要性を増してくると考えております。

平成9年4月に産声をあげた当センターも、折々の時代の要請に対応するうちに、業務量が増加しかつ多様化してきました。近年では、平成18年度に開始した精神障害者退院促進支援事業、平成22年度に試行実施の上で翌23年に本格実施した精神科デイケア「リワーク準備コース」、平成23年3月に発生した東日本大震災に伴う「こころのケア」関連の諸業務ならびに同年11月の仙台市自殺予防情報センター（こころの絆センター）開設などがあります。加えて、精神保健福祉相談や精神科デイケアでも、相談内容や利用目的が広範化かつ複雑化し、事業の増加に伴う事務量も増加してきました。このため、従来の相談係・デイケア係から成る体制の見直しを行い、平成25年度からは、新たに、主に庶務事務ならびに精神障害者保健福祉手帳および自立支援医療（精神通院）判定事務を担う、管理係を新設しました。係を超えて実施しているアウトリーチ活動の位置づけなど、未だに整理を要する業務はありますが、より効率的に精神保健福祉活動を進めて行けるよう、体制上も、努力を重ねて参ります。

本紀要を御高覧の上、御意見や御指導を賜りますとともに、今後とも御支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成26年12月

仙台市精神保健福祉総合センター
所長 林 みづ穂

目 次

はじめに

I 研究・報告

1. 研究・報告	1
東日本大震災前後の各都道府県の自殺率変化とその原因探索	1
2. 平成 25 年度論文・著書・学会発表等	7

II 組織・業務・予算決算

1. 仙台市精神保健福祉総合センターの組織	11
(1) 組織	11
(2) 健康福祉局健康福祉部の機構	11
(3) 精神保健福祉総合センターの事務分掌	11
2. 業務の内容	12
(1) 管理係	12
(2) 相談係	12
(3) デイケア係	13
3. 職員の構成	14
4. 事業費の状況	15
(1) 歳入	15
(2) 歳出	15

III 事業概要

1. 診察状況	16
(1) 月別診察件数	16
(2) 新規診察ケース診断別処遇状況	16
(3) 診断名・年齢別診察件数	16
(4) 精神保健福祉法に基づく指定医診察件数	16
2. 精神保健福祉相談	17
(1) 精神保健福祉相談状況	17
(2) アルコール家族ミーティング	25
(3) ひきこもり関係事業	25
(4) 職場のメンタルヘルス支援事業	27
3. 精神科デイケア	28
(1) デイケアの概況	28
(2) デイケア指導状況	28
(3) 就労支援・社会参加コースの指導内容	29
(4) リワーク準備コースの指導内容	44
4. 地域生活支援	48
(1) 精神障害者退院促進支援事業	48
(2) 地域ネットワーク事業	49

(3)	保健所等処遇困難事例支援	50
5.	自殺予防情報センター（こころの絆センター）	51
(1)	自殺予防情報センターの概要	51
(2)	電話相談	51
(3)	面接相談	53
(4)	人材育成	53
(5)	普及・啓発	54
(6)	遺族支援	54
(7)	実態把握	54
(8)	関係機関との連携強化	55
6.	精神医療審査会・精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療の判定	56
(1)	精神医療審査会の審査状況	56
(2)	精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院）の判定状況	57
7.	人材育成	59
(1)	研修事業	59
(2)	ケース会議	62
(3)	デイケア通所者についてのケース検討会	62
8.	技術援助	64
(1)	関係機関に対する技術援助	64
(2)	地域精神保健福祉活動連絡会議	64
9.	普及啓発	66
(1)	こころの健康フェスティバル	66
(2)	高校生に対するアルコール講演会・薬物講演会	66
(3)	はあとぼーと通信	67
10.	組織育成	68
(1)	仙台市精神保健福祉関係機関業務連絡会議	68
(2)	アルコール問題対策連絡会議	68
11.	東日本大震災後のこころのケア	70
(1)	相談支援	70
(2)	普及啓発	72
(3)	人材育成	73
(4)	マネジメント	73

IV 資料

	仙台市精神保健福祉総合センターの沿革・施設概要	74
--	-------------------------	----

I 研究・報告

1. 研究・報告

東日本大震災前後の各都道府県の自殺率変化とその原因探索

精神保健福祉総合センター 主幹 大類 真嗣

はじめに

大規模災害後には、被災地の住民の精神的な不調を来すことが報告されており、被災地の心的外傷ストレス障害（PTSD）、うつ病の有病率や自殺率が上昇することが考えられる1-4。そのため、東日本大震災発生直後から全国各地からこころのケアチームなどの活動が被災地各地で展開されている。しかしその一方で、阪神淡路大震災や新潟中越地震のような国内の大規模震災時には被災地の自殺率が一定期間低下すると報告されており5-6、また、震災後の自殺率低下の原因分析についての報告は限られている。今回の東日本大震災においては未曾有の被害をもたらしたことから、被災地のみならず周辺地域も含めた自殺率の動向に留意する必要がある。今後の被災者の自殺も含めたこころの健康課題に対応するためにも、自殺率の変化および変化をもたらす要因について検討する必要がある。そこで今回の研究では、1) 被災県および周辺の県も含めた震災前後の各都道府県の自殺率の変化を把握、2) 震災前後の経済的要因や保健活動状況の変化と自殺率との関連性を検討した。

方 法

1) 東日本大震災前後の自殺率の変化の検討

東日本大震災前後の自殺率を検討するにあたり、津波被害が大きく、全国の死者・行方不明者の98%を占める岩手県、宮城県および福島県を被災県とし、その対照群として同じ東北地方の青森県、秋田県および山形県を周辺県とした。

人口動態調査データを基に、全都道府県の2008年3月から2012年2月までの36か月間の月別自殺者数（概数）を収集した。また、2008年から2012年までの各年の10月1日時点の推計人口を基に、東日本大震災前（2008.3-2011.2）の平均自殺率及び震災後（2011.3-2012.2）の自殺率を算出し、Poisson分布を仮定した検定を用い震災前後の自殺率の変化を検討した。

2) 東日本大震災前後の自殺率の変化と経済的要因や保健活動状況との関連性

震災前後の自殺率変化を従属変数、i) 大型小売店販売額、ii) 宿泊旅行者数、iii) 企業倒産数、iv) 有効求人倍率、v) 精神保健福祉センター、保健所、市町村での相談件数の合計を震災前後で把握し、その変化率を独立変数としPearson相関および重回帰分析を用い関連性を検討した。統計分析は両側検定とし、有意水準は5%とし、いずれの分析はエクセル統計2012®を用いた。i) - iv) は景気動向判断する主要経済指標として採用されており、全てのデータはホームページ上で公開されているものを引用した。

結果

1) 東日本大震災前後の自殺率の変化の検討

まず、東日本大震災の被災県および周辺県の状況については、男女ともに東日本大震災前から被災県、周辺県ともに自殺率の低下傾向にあったが、震災発生後も被災県の男性の自殺率は継続して低下していた。一方、女性については被災県の自殺率が震災後に一時的に上昇していた。周辺県については震災後1年経過したのち男女とも低下傾向が止まり、同水準から上昇している状況であった（図1）。

次いで、全国の都道府県の震災前後の変化については、男性において宮城県、周辺の青森県、山形県で極端に自殺率が低下（ $p < 0.001$ ）し、岩手県、秋田県、福井、長野、京都、鹿児島でも有意に低下した（ $p < 0.01$ ）女性については、自殺率の有意な変化を示した都道府県が散見されるが、全体的に男性と比較してその増減に一貫性は認めなかった（図2、表1）。

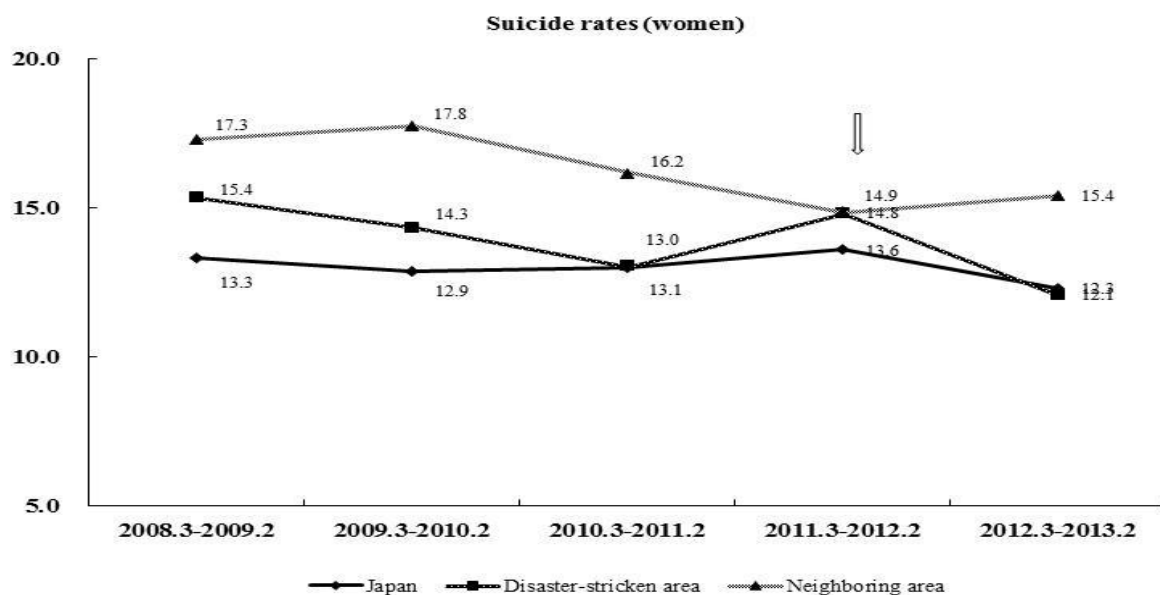
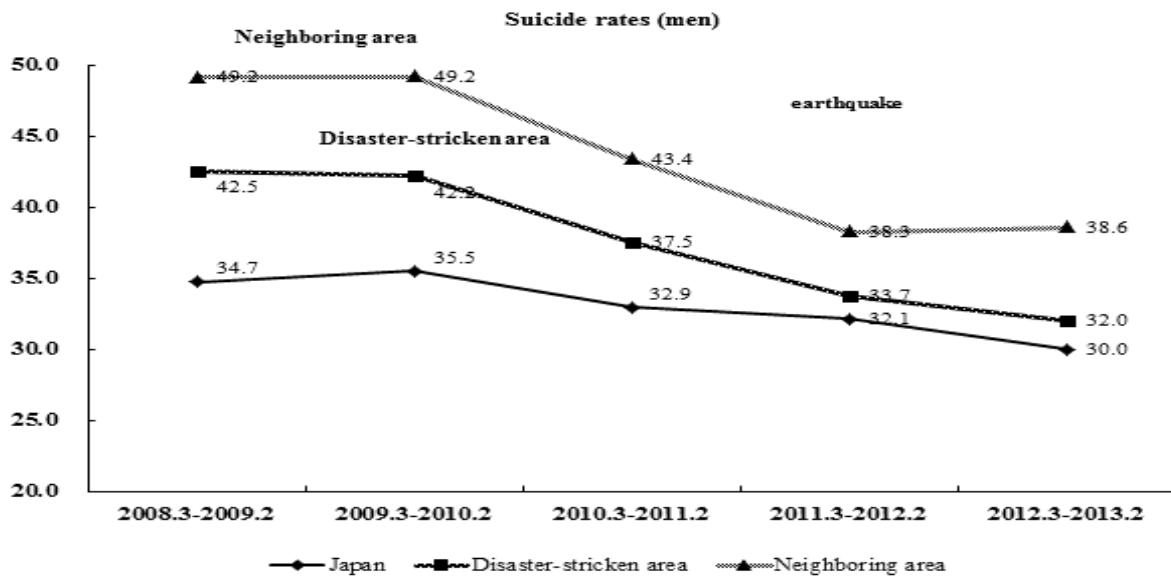


Figure 1. Pre- and post-disaster changes in suicide rates

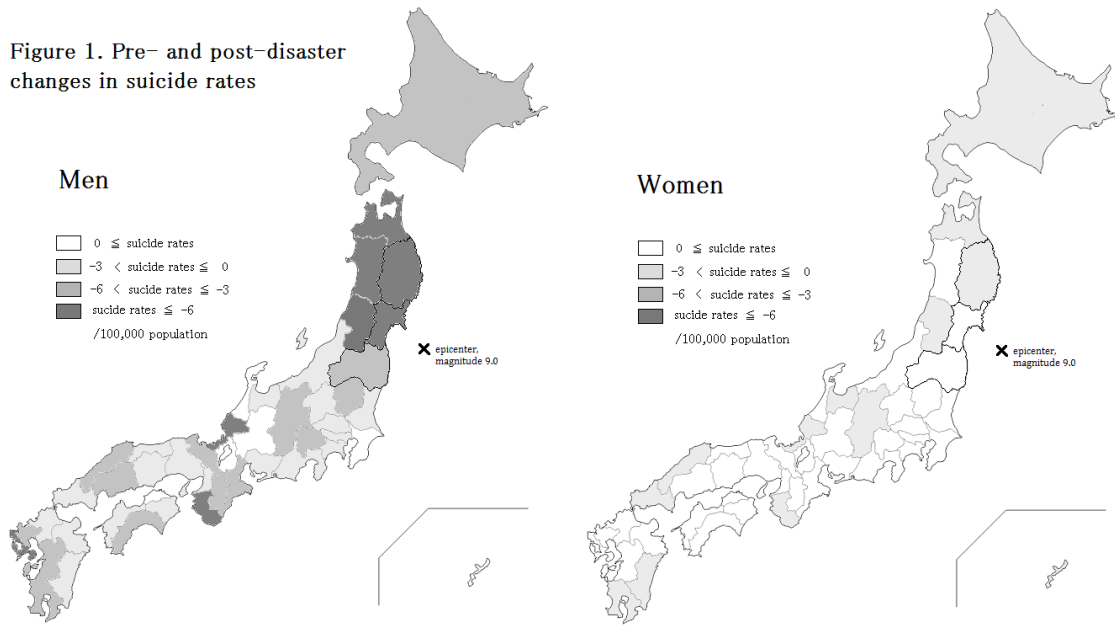


Table 1. Changes in suicide rates (pre-earthquake; 2008.3-2011.2, post-earthquake; 2011.3-2012.2)

<i>Men</i>													
Prefectures	population in 2011 (thousand)	pre-disaster		post-disaster		Poisson distribution p value	Prefectures	population in 2011 (thousand)	pre-disaster		post-disaster		Poisson distribution p value
		n [†]	rates [‡]	n	rates				n [†]	rates [‡]	n	rates	
Hokkaido	2,591	1,017	39.0	896	34.6	<0.001 ***	Shiga	698	205	29.5	225	32.2	0.097
Aomori	641	325	50.1	256	39.9	<0.001 ***	Kyoto	1,263	394	31.2	336	26.6	0.002 **
Iwate	627	304	47.5	254	40.5	0.005 **	Osaka	4,280	1,421	33.3	1,343	31.4	0.015 *
Miyagi	1,130	429	37.8	327	28.9	<0.001 ***	Hyogo	2,669	858	32.1	853	32.0	0.462
Akita	505	270	52.4	210	41.6	<0.001 ***	Nara	660	188	28.4	164	24.8	0.046 *
Yamagata	557	223	39.4	186	33.4	0.011 *	Wakayama	468	180	38.1	149	31.8	0.014 *
Fukushima	967	394	39.8	338	35.0	0.008 **	Tottori	279	115	40.7	106	38.0	0.254
Ibaraki	1,474	513	34.8	476	32.3	0.054	Shimane	341	152	44.3	135	39.6	0.102
Tochigi	994	371	37.2	329	33.1	0.017 *	Okayama	931	292	31.3	271	29.1	0.116
Gunma	984	373	37.8	343	34.9	0.071	Hiroshima	1,378	451	32.6	397	28.8	0.007 **
Saitama	3,612	1,166	32.5	1,106	30.6	0.025 *	Yamaguchi	680	260	37.9	253	37.2	0.408
Chiba	3,096	928	30.2	943	30.5	0.401	Tokushima	370	112	29.9	106	28.6	0.353
Tokyo	6,524	1,922	29.9	1,909	29.3	0.190	Kagawa	478	149	31.0	177	37.0	0.011 *
Kanagawa	4,543	1,322	29.3	1,283	28.2	0.103	Ehime	670	227	33.6	217	32.4	0.309
Niigata	1,142	490	42.5	455	39.8	0.083	Kochi	356	153	42.6	131	36.8	0.049 *
Toyama	524	193	36.4	186	35.5	0.377	Fukuoka	2,397	877	36.7	854	35.6	0.206
Ishikawa	563	181	32.1	189	33.6	0.272	Saga	399	153	38.1	138	34.6	0.136
Fukui	388	138	35.2	110	28.4	0.011 *	Nagasaki	662	270	40.5	215	32.5	<0.001 ***
Yamanashi	420	162	38.3	139	33.1	0.045 *	Kumamoto	852	325	38.0	284	33.3	0.013 *
Nagano	1,041	373	35.5	322	30.9	0.006 **	Oita	563	198	35.1	191	33.9	0.340
Gifu	1,002	323	31.9	330	32.9	0.298	Miyazaki	531	236	44.3	221	41.6	0.189
Shizuoka	1,846	598	32.1	580	31.4	0.323	Kagoshima	794	320	40.1	275	34.6	0.007 **
Aichi	3,705	1,050	28.2	1,024	27.6	0.256	Okinawa	687	269	39.6	290	42.2	0.148
Mie	900	286	31.4	253	28.1	0.038 *	Japan	62,184	21,389	34.4	19,976	32.1	<0.001 ***

Women

Prefectures	population	pre-disaster		post-disaster		Poisson	Prefectures	population	pre-disaster		post-disaster		Poisson
	in 2011	n [†]	rates [†]	n	rates	distribution		in 2011	n [†]	rates [†]	n	rates	distribution
Hokkaido	2,895	424	14.6	411	14.2	0.311	Shiga	715	89	12.6	91	12.7	0.467
Aomori	722	113	15.5	91	12.6	0.025 *	Kyoto	1,369	173	12.6	174	12.7	0.476
<i>Iwate</i>	<i>687</i>	<i>135</i>	<i>19.3</i>	<i>114</i>	<i>16.6</i>	<i>0.055</i>	Osaka	4,581	628	13.8	641	14.0	0.354
<i>Miyagi</i>	<i>1,197</i>	<i>143</i>	<i>11.9</i>	<i>161</i>	<i>13.5</i>	<i>0.062</i>	Hyogo	2,913	373	12.8	416	14.3	0.016 *
Akita	570	120	20.7	119	20.9	0.475	Nara	735	81	11.0	84	11.4	0.375
Yamagata	604	95	15.6	72	11.9	0.011 *	Wakayama	527	83	15.5	81	15.4	0.499
<i>Fukushima</i>	<i>1,023</i>	<i>143</i>	<i>13.6</i>	<i>156</i>	<i>15.2</i>	<i>0.091</i>	Tottori	306	42	13.7	43	14.1	0.452
Ibaraki	1,483	185	12.4	219	14.8	0.007 **	Shimane	372	53	14.2	45	12.1	0.161
Tochigi	1,006	146	14.5	148	14.7	0.425	Okayama	1,010	103	10.2	118	11.7	0.075
Gunma	1,016	136	13.3	143	14.1	0.258	Hiroshima	1,477	178	12.0	182	12.3	0.389
Saitama	3,595	491	13.8	501	13.9	0.428	Yamaguchi	762	103	13.4	101	13.3	0.478
Chiba	3,118	389	12.6	413	13.2	0.165	Tokushima	410	49	11.9	50	12.2	0.447
Tokyo	6,672	881	13.5	1,005	15.1	<0.001 ***	Kagawa	514	59	11.4	64	12.5	0.264
Kanagawa	4,515	556	12.5	584	12.9	0.203	Ehime	754	98	12.8	93	12.3	0.377
Niigata	1,220	190	15.4	201	16.5	0.183	Kochi	402	56	13.7	53	13.2	0.419
Toyama	563	90	15.8	83	14.7	0.280	Fukuoka	2,682	321	12.0	371	13.8	0.005 **
Ishikawa	603	71	11.8	71	11.8	0.510	Saga	448	48	10.7	54	12.1	0.207
Fukui	415	46	11.1	40	9.6	0.211	Nagasaki	756	85	11.1	95	12.6	0.121
Yamanashi	438	61	13.8	68	15.5	0.176	Kumamoto	961	119	12.3	128	13.3	0.200
Nagano	1,101	149	13.4	136	12.4	0.178	Oita	629	75	11.9	78	12.4	0.373
Gifu	1,069	129	12.0	141	13.2	0.131	Miyazaki	600	94	15.7	89	14.8	0.325
Shizuoka	1,903	212	11.0	237	12.5	0.035 *	Kagoshima	905	114	12.5	106	11.7	0.283
Aichi	3,711	413	11.2	442	11.9	0.096	Okinawa	714	87	12.4	82	11.5	0.268
Mie	947	101	10.5	106	11.2	0.283	Japan	65,615	8,563	13.1	8,920	13.6	0.000 ^^^

† : 3-year average suicide rates

* p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001

Italics: disaster-stricken area

2) 東日本大震災前後の自殺率の変化と経済的要因や保健活動状況との関連性

経済的要因および保健活動状況との自殺率の変化との関連については表 2, 3 のとおりである。Pearson 相関分析では、男性において有効求人倍率 ($r=-0.501$, $p<0.001$), 企業倒産数 ($r=0.468$, $p=0.001$) が有意な関連性を認めた一方、女性においては有意な関連性を示した項目は認められなかった。重回帰分析では、男性において有効求人倍率が自殺率の変化と有意な関連性を示した ($\beta=-0.378$, $p=0.024$)。

考 察

被災した岩手、宮城、周辺の北海道、青森、秋田、山形でも震災前後で有意に自殺率が低下した。震災の影響により一般住民のうつ病といった精神疾患を罹患すると報告されており、自殺のリスクが高まることが考えられたが、実際には先行研究 5-6 と同様に、被災県及びその周辺において特異的な自殺率の低下が認められた。先行研究においては、災害発生後 2-3 年後に自殺率が再び上昇したことから、今回の東日本大震災後の被災地の自殺率の動向に細心の注意を払う必要がある。

今回は自殺率の変化の原因探索のために経済的要因及び保健活動状況との関連を検討したが、これまでの自殺率と社会経済要因等との関連性についての先行研究 7-8 では、有効求人数、企業倒産率、1 世帯当たりの貯蓄額、有効求人倍率、企業倒産数、失業率といった要因が男性の自殺率との間に有意な関連性が認められており、今回はこれら先行研究を参考に独立変数を採択した。その結果変化、有効求人倍率および企業倒産数に関連性を認

めた。地域の経済 2012（内閣府）では「復興のための建設業関係や廃棄物処理業等での求人増加が影響し、震災後の被災県及び周辺で有効求人倍率が急上昇した」と報告しており、加えて企業倒産数が減少した。このことから、震災後の有効求人倍率の上昇や企業倒産数の減少といった景気動向が自殺率変化の一要因として考えられた。精神保健福祉センター、保健所、市町村の相談件数の合計との関連では、有意な関連性は認められず、むしろ被災地での相談件数は震災後減少していた。震災直後から活動した心のケアチームやその他の活動が従来の相談機能を補完し、自殺に保護的に作用した可能性がある。しかし、心のケアチームが活動していない周辺地域でも自殺率が低下し、相談件数も減少した状況を併せると、一般住民の相談行動の変化や自殺に対する意識変化が自殺率低下に影響を与えた可能性があり、今後の検討課題である。

今回の研究は、地域相関研究であり、震災前後の自殺率の変化と経済的要因や保健活動状況との因果関係を示すものではないので、結果の解釈には留意が必要である。また、観察期間が震災発生後 1 年間と短かったことから、今後の被災地における自殺率の動向に留意しながら、今回得られた結果を参考にし被災者支援、自殺対策に取り組んでいく必要がある。

結 語

震災前後の自殺率変化を検討した結果、被災県のみならずその周辺でも自殺率が有意に低下した。また、震災前後の有効求人倍率や企業倒産数の変化が自殺率に影響をもたらした可能性が示唆された。

参考文献

1. Murphy SA. Status of natural disaster victims' health and recovery 1 and 3 years later. *Res. Nurs. Health* 1986; 9: 331-340.
2. Kiliç C, Ulusoy M. Psychological effects of the November 1999 earthquake in Turkey: an epidemiological study. *Acta. Psychiatr. Scand.* 2003; 108: 232-238.
3. Wu HC, Chou FH, Su CY, Tsai KY, Ou-Yang WC, Su TT, et al. Survey of quality of life and related risk factors for a Taiwanese village population 3 years post-earthquake. *Aust. NZJ Psychiatry* 2006; 40: 355-361.
4. Suzuki Y, Tsutsumi A, Fukasawa M, Honma H, Someya T, Kim Y. Prevalence of Mental Disorders and Suicidal Thoughts Among Community-Dwelling Elderly Adults 3 Years After the Niigata-Chuetsu Earthquake. *J. Epidemiol.* 2011; 21: 144-150.
5. Nishio A, Akazawa K, Shibuya F, Abe R, Nushida H, Ueno Y, et al. Influence on the suicide rate two years after a devastating disaster: A report from the 1995 Great Hanshin-Awaji Earthquake. *Psychiatry Clin. Neurosci.* 2009; 63: 247-250.
6. Hyodo K, Nakamura K, Oyama M, Yamazaki O, Nakagawa I, Ishigami K, et al. Long-Term Suicide Mortality Rates Decrease in Men and Increase in Women after the Niigata-Chuetsu Earthquake in Japan. *Tohoku J. Exp. Med.* 2010; 220: 149-155.
7. Aihara H, Iki M. An Ecological Study of the Relations between the Recent High Suicide Rates and Economic and Demographic Factors in Japan. *J. Epidemiol.* 2003; 13:

56-61.

8. Yamasaki A, Araki S, Sakai R, Yokoyama K, A. Scott Voorhees KA. Suicide Mortality of Young, Middle-aged and Elderly Males and Females in Japan for the Years 1953-96: Time Series Analysis for the Effects of Unemployment, Female Labour Force, Young and Aged Population, Primary Industry and Population Density. *Industrial Health* 2008; 46: 541-549.

2. 平成 25 年度論文・著書・学会発表等

論文・著書

- 林みづ穂：震災を経験した子どもと保護者を支えるために． あすをきずく：pp18-42 函館地方精神保健協会 精神保健講演会、函館． 2013
- 林みづ穂：震災後の子どものこころのケア． 山梨県小児保健協会誌、甲府． 2013
- 林みづ穂：仙台市における震災後の子どものこころのケア． 第 25 回東北学校保健・学校医大会誌、盛岡． 2013
- 林みづ穂：私たちは何をおこなって来たのか． 仙台市児童生徒の心のケア実践記録～東日本大震災後の 3 年間の取組～：pp19、仙台市教育委員会、2014
- 松本和紀、小原聡子、林みづ穂、原敬造、白澤英勝：東日本大震災における宮城県の精神科医の活動． 精神医学 44(4)：pp391-400、2013
- 松本和紀、白澤英勝、岩館敏晴、原敬造、林みづ穂、他：宮城県における震災後の精神医療の状況 一震災から 1 年を経て一． 精神経誌 115(5)：pp492-497、2013
- 松本和紀、上田一気、佐久間篤、白澤英勝、林みづ穂、他：東日本大震災後の宮城県の精神科医療機関における精神科医療の実態調査． 精神薬療研究年報 46：pp92-93、2014
- 西尾雅明、大島進吾、菊池陽子、鈴木由美、林みづ穂：仙台市宮城野区における地域精神保健医療福祉システムの再構築に向けた支援者支援に関する報告． 厚生労働科学研究「東日本大震災の被災地における地域精神保健医療福祉システムの再構築に資する中長期支援に関する研究」：pp67-72、2014

学会・研究会発表・講演等

- 林みづ穂：いじめ・不登校の子どもを支える． 子どもサポーターズ養成講座、仙台． 2013
- 林みづ穂：仙台市における震災後の子どものこころのケア． 第 25 回東北学校保健・学校医大会、盛岡． 2013
- 林みづ穂：発達障害児に関する医療の役割と教育との連携． 仙台市教育委員会 特別支援教育コーディネーター養成研修、仙台． 2013
- 林みづ穂：中長期的視点に立った震災後の子どもの心のケア～子どもたちの健やかな成長発達を願って～． 仙台市立岡田小学校教職員研修、仙台． 2013
- 林みづ穂：身体はこころの窓～身体症状を呈する精神疾患患者へのアプローチ～． 仙台市急患センター耳鼻科医会、仙台． 2013
- 林みづ穂、川村璃沙：心的外傷からの回復過程で震災を経験した一例． 第 54 回日本児童青年精神医学会総会、札幌． 2013
- 林みづ穂：被災地の中長期の子どものメンタルヘルスとそのケア． JICA 中国人専門家訪日研修、仙台． 2013
- 林みづ穂：自殺の現状と生きるための支援． かかりつけ医等心の健康対応力向上研修、仙台． 2013
- 林みづ穂：災害と子どものトラウマ． こころの健康づくり対策事業研修会、名古屋． 2014

- 松本和紀、上田一気、佐久間篤、白澤英勝、林みづ穂、他：東日本大震災後の宮城県の精神科医療機関における精神科医療の実態調査．第46回精神神経系薬物治療研究報告会、大阪．2013
- 林みづ穂、原田修一郎、大類真嗣：民生委員児童委員自身の心のケアについて．仙台市民生委員児童委員研修会、仙台．2013
- 原田修一郎：精神科医の講話．青葉区精神障害者家族のつどい、仙台．2013
- 原田修一郎：復興期のメンタルヘルス．青葉区こころの健康づくり講演会、仙台．2013
- 原田修一郎、大類真嗣、長谷川順子、野田承美、森谷郁子、高橋由里、本庄谷奈央、佐々木妙子、伊藤真理子、林みづ穂：精神科デイケアにおける復職デイケアの実践－復職デイケア開始後3年間の通所者特性について－．第67回東北精神神経学会総会、仙台、2013
- 原田修一郎、塩見亮輔：震災を経験した私たちの心身の健康について．青葉区役所宮城総合支所こころの健康づくり事業、仙台．2014
- 原田修一郎：精神科医と座談会．泉区精神障害者家族教室、仙台．2014
- 原田修一郎：こころの健康を保つために～ストレスを抱えた時に、自分ができること、周りの人ができること～．太白区役所秋保総合支所メンタルヘルス研修会、仙台．2014
- 原田修一郎：復職デイケアの実践から．宮城産業保健推進センター第10回メンタルヘルス事例検討会（産業医と精神科医、心療内科医による連携に関する検討会）、仙台．2014
- 大類真嗣：東日本大震災前後の各都道府県の自殺率変化とその原因探索．第109回日本精神神経学会、福岡．2013
- Masatsugu Orui, Shuichiro Harada and Mizuho Hayashi : Reduced suicide rates in disaster-stricken and neighboring areas following the Great East Japan Earthquake. 27th International association for Suicide prevention, Oslo, Norway. 2013
- 大類真嗣、田崎香菜子、渡邊みゆき、高橋悠佳、川村郁子、原田修一郎、林みづ穂：東日本大震災後の宮城県内の自殺率の動向．第33回日本社会精神医学会総会、東京．2014
- 大類真嗣、田崎香菜子：ゲートキーパーの役割と対応の仕方－心の病気の理解とメンタルヘルス対策について－．みやぎ生活協同組合研修会、仙台．2013
- 大類真嗣、田崎香菜子、渡邊みゆき：ゲートキーパーの役割と対応の仕方：青葉区生活衛生同業組合協議会、仙台．2013
- 大類真嗣、林みづ穂、川村郁子：児童生徒における自殺予防：平成25年度第2回仙台市スクールカウンセラー連絡協議会、仙台．2013
- 大類真嗣、高橋悠佳：ゲートキーパーの役割と対応の仕方．泉区理容・美容衛生講習会、仙台．2013
- 大類真嗣：地域の取組事例報告（講評）．内閣府自殺対策連携コーディネート研修、仙台．2013

大類真嗣：総合討議（精神科医療機関における自殺の経験および自殺予防に役立っていると考えられる取組）. 国立精神保健研究所 第8回精神科医療従事者自殺予防研修、仙台. 2013

大類真嗣：最近の自殺の現状と仙台市の自殺対策について. 仙台グリーンケア研究会 医療者のための自死未遂者対応研修会、仙台. 2013

大類真嗣、高橋悠佳：ゲートキーパーの役割を理解するーゲートキーパーの役割と対応の仕方ー. 青葉区役所宮城総合支所「平成25年度ゲートキーパー養成研修」、仙台. 2014

大類真嗣：うつ病のアセスメントと支援. 宮城野区自殺予防対策研修会（支援者のためのスキルアップ研修会）、仙台. 2014

大類真嗣：最近の自殺の現状と仙台市の自殺対策について. 仙台グリーンケア研究会 精神科医療者のための自死未遂者対策研修会、仙台. 2014

大類真嗣、川村郁子：3.11 東日本大震災・こころのケアについて. 中野栄町内会「こころの健康づくり」研修会、仙台. 2013

大類真嗣、佐藤大介：中長期的な時期における被災者支援の基本的な視点. 若林区震災後のこころのケア支援研修会、仙台. 2013

大類真嗣、川村郁子、佐藤大介：中長期的な時期における被災者支援の基本的な視点. 泉林区震災後のこころのケア支援研修会、仙台. 2013

大類真嗣：良い仕事は健康なこころから. 仙台・札幌高等検察庁管内検察事務官初等科研修、仙台. 2013

大類真嗣、田崎香菜子：ストレスと上手に付き合うための工夫. 地区健康教育（作並温泉ゆづくし Salon 一の坊）、仙台. 2013

大類真嗣、高橋悠佳：職場におけるメンタルヘルス. 日本コムシス株式会社東北支社、仙台. 2013

大類真嗣：中小企業に必要なメンタルヘルスの基礎知識、宮城県中小企業家同友会第15期同友会大学、仙台. 2013

大類真嗣、渡邊みゆき：支援者のためのメンタルヘルス対策ー多彩な問題に関わる支援者のメンタルヘルスを保つためにー. 宮城県司法書士会 司法書士業務のためのメンタルヘルス研修会、仙台. 2013

大類真嗣、田崎香菜子：ラインケアについて. 特別養護老人ホームせんだい郷六の杜特別研修、仙台. 2013

大類真嗣、田崎香菜子：職場のメンタルヘルスとストレスコントローラーバーンアウトを防ぐためにー. 仙台白百合女子大学就職内定者研修、仙台. 2014

大類真嗣：精神保健福祉について. NPO 法人宮城県断酒会酒害相談研修会講座、仙台. 2013

大類真嗣：精神保健福祉の現状と具体的活動. 仙台市新任民生委員児童委員研修会、仙台. 2013

大類真嗣：精神障害の知識と対応. みやぎ生協こーぷくらしの助け合いの会福祉学習会、仙台. 2013

大類真嗣：“こころの病気”を理解する．青葉区役所宮城総合支所精神保健福祉家族教室、
仙台．2013

大類真嗣：家族が知っておきたい統合失調症の治療の状況と対応方法．宮城野区役所精神保健福祉家族教室、仙台．2013

大類真嗣：ストレスを知り、上手く付き合う方法．青葉区役所宮城総合支所精神保健福祉講演会、仙台．2013

大類真嗣：ココロの病～症状とその原因からの回復の道～．NPO 法人日本 YOGA 連盟イキイキ生活サポート講座、仙台．2014

研究協力

東日本大震災の被災地における地域精神保健医療福祉システムの再構築に資する中長期支援に関する研究：研究代表者 樋口輝彦、分担研究者 西尾雅明、研究協力者 林みづ穂 他

地域精神保健における精神保健福祉センターの役割とこれからのあり方に関する研究：分担事業者 田辺等、事業統括者 野津眞、事業協力者 福島昇 新畑敬子 林みづ穂

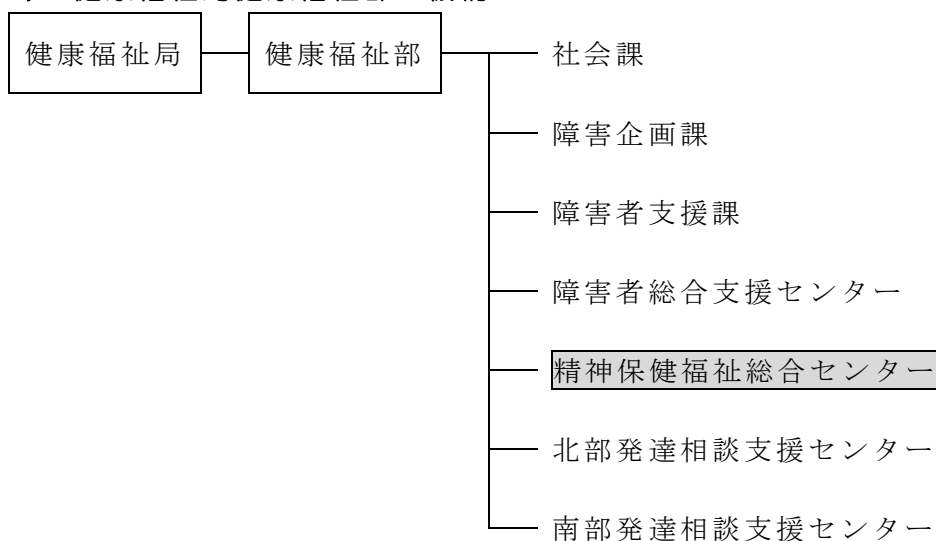
Ⅱ 組織・業務・予算決算

1. 仙台市精神保健福祉総合センターの組織

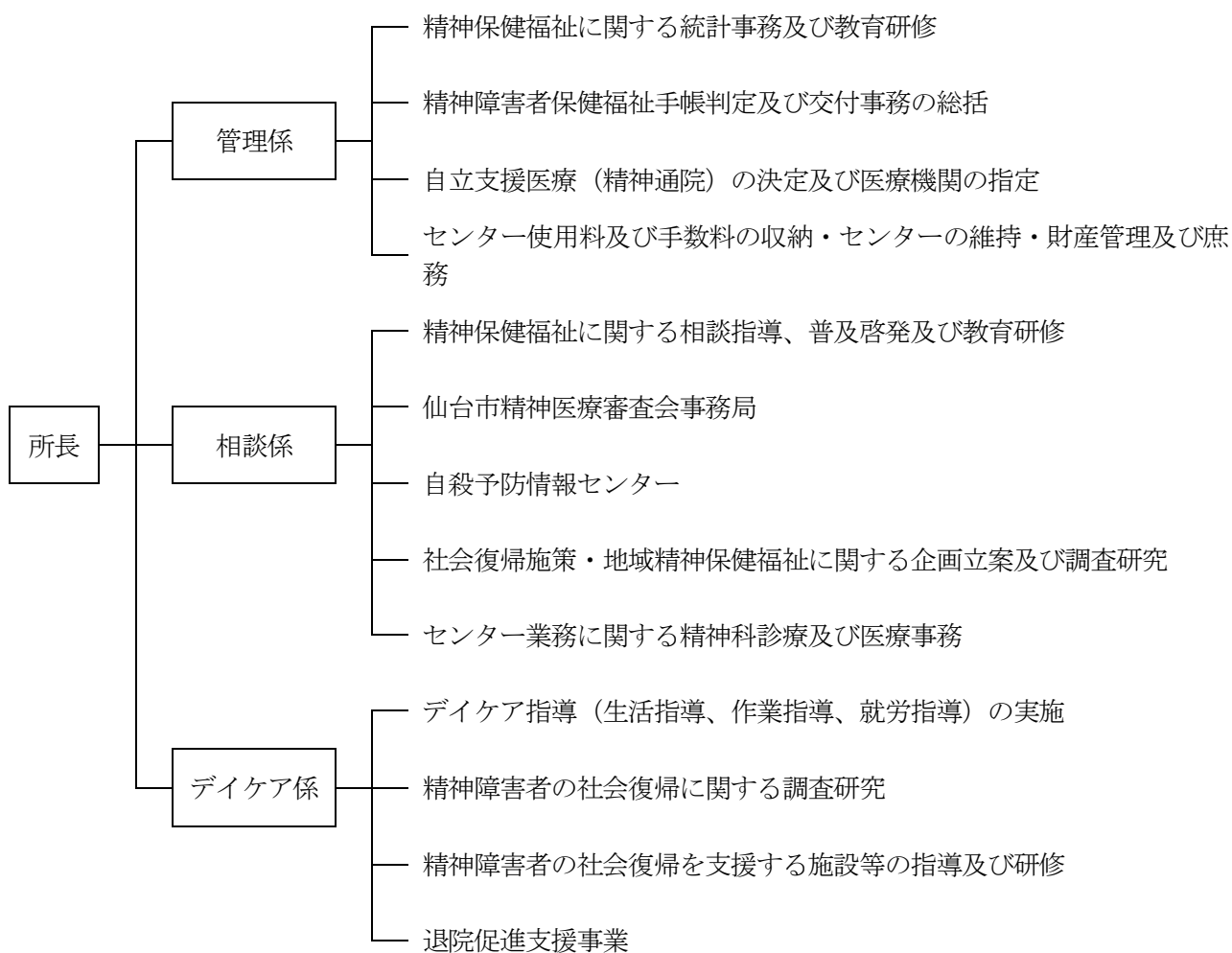
(1) 組織

仙台市健康福祉局健康福祉部に所属する第二種公所（課相当）

(2) 健康福祉局健康福祉部の機構



(3) 精神保健福祉総合センターの事務分掌



1. 業務の内容

(1) 管理係

- センターの維持・財産管理及び庶務
- センター使用料及び手数料の収納
 - ・診療費、デイケア通所料の収納
 - ・診断書料の収納
- 精神障害者保健福祉手帳判定及び交付事務の総括
 - ・判定会の開催
 - ・交付決定
- 自立支援医療（精神通院）の決定及び医療機関の指定
- 精神保健福祉に関する相談指導、普及啓発及び教育研修
 - ・こころの健康フェスティバル
 - ・研修事業（精神保健福祉基礎講座、思春期問題研修講座、アルコール問題研修講座等）
- センター業務に関する精神科診療及び医療事務

(2) 相談係

- ・来所相談、電話相談（はあとライン、ナイトライン）
- ・アルコール家族ミーティング、ひきこもり関係事業（講演会、家族教室、家族グループ）
- ・職場のメンタルヘルス支援事業
- ・高校生に対するアルコール講演会・薬物講演会
- ・震災後こころのケア
- ・震災後子どもこころのケア
- 仙台市精神医療審査会事務局
 - ・審査会の開催
 - ・退院請求、処遇改善請求電話
- 自殺予防情報センター
 - ・電話相談、面接相談
 - ・人材育成研修（自殺対策ゲートキーパー養成講座、地域自殺対策研修講座等）
 - ・自殺対策に関する普及・啓発
 - ・遺族支援（遺族相談、遺族支援団体についての情報提供）
 - ・自殺の実態把握
 - ・関係機関との連携強化（仙台市自殺対策連絡協議会、自殺総合対策庁内連絡会議等）
- 社会復帰施策・地域精神保健福祉に関する企画立案及び調査研究

(3) デイケア係

- デイケア指導（生活指導、作業指導、就労指導）の実施
 - ・就労支援・社会参加コース
 - ・リワーク準備コース
- 精神障害者の社会復帰に関する調査研究
- 精神障害者の社会復帰を支援する施設等の指導及び研修
 - ・地域ネットワーク事業（作業所見学ツアー）
 - ・仙台市精神保健福祉関係機関業務連絡会議
 - ・精神保健福祉実践講座
- 精神障害者退院促進支援事業
 - ・事業運営委員会、地域移行推進連絡会の開催
 - ・退院促進のための個別支援（訪問、面談）
 - ・精神科病院への働きかけ（説明会、支援事例集の配布等）
 - ・退院促進支援関係研修会

2. 職員の構成

正職員		19名		
	課長級	所長	1名	(精神科医)
		主幹兼係長	2名	(事務1名、保健師1名)
		主幹	2名	(精神科医2名)
	係長級	係長	1名	(保健師)
		主査	3名	(心理2名、看護師1名)
	主任	3名	(事務2名、心理1名)	
	臨床心理士	4名		
	保健師	2名		
作業療法士	1名			
嘱託・臨時職員		19名		
	精神科医	5名	精神障害者保健福祉手帳判定及び自立支援医療(精神通院)判定委員	
	事務	1名		
	臨床心理士	8名	うち2名は障害者支援課付	
	精神保健福祉士	3名		
	看護師	1名		
	薬剤師	1名		
合計		38名		

※平成25年度末現在

3. 事業費の状況

(1) 歳入

単位：千円（千円未満切捨）

科 目	決算額	備 考
精神保健福祉センター使用料	28,858	診療報酬
精神保健福祉センター手数料	94	診断書料
国 庫 等 補 助 金	1,663	
そ の 他 の 収 入	99	行政財産使用料等
合 計	30,714	

(2) 歳出

単位：千円（千円未満切上）

科 目	決算額	備 考
報 酬	2,533	委員報酬（労務課所管）
報 償 費	5,059	講師謝礼等
旅 費	1,739	各種学会・研修会
需 用 費	11,118	デイケア教材・医薬品等
役 務 費	7,575	文書料等
委 託 料	17,316	清掃・警備委託、ナイトライン委託
使 用 料 賃 借 料	986	事務機器賃借・会場使用料
負 担 金 等	254	学会参加費等
合 計	46,580	

Ⅲ 事業概要

1. 診察状況

平成 25 年度の診察状況は、以下の表の通りである。

(1) 月別診察件数

件数	月	H25									H26			計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
新規	規 (実人数)	5	5	5	6	5	6	5	7	5	4	5	2	60
再来	来 (延人数)	60	57	59	63	47	69	54	51	57	50	54	58	676
デイケア	診察 (延人数)	3	11	3	6	8	1	7	6	8	10	7	2	72
計		68	73	67	75	60	76	66	64	67	64	66	62	808

(2) 新規診察ケース診断別処遇状況 (重複有)

処遇	診断名	統合失調症	気分障害	非定型精神病	神経症	てんかん	精神遅滞	精神遅滞以外の発達障害	人格障害	物質関連性障害	器質性精神障害	その他	計
当所継続	医療	1	2		4			1					8
	カウンセリ		1		1			1					3
	集団療法 デイケア	9	17		12								38
他機関紹介	医療機関												
	保健所 その他	2			1			1	1				5
終 結		3	2		4								9
計		15	22		22			1	3				63

(3) 診断名・年齢別診察件数

診断名	年 齢	≤10	11-20	21-30	31-40	41-50	51-60	60<	計
統合失調症			1	13	15	9	3	3	44
気分障害			1	5	9	10	4	1	30
非定型精神病									
神経症			6	17	9	11			43
てんかん									
精神遅滞				2		2			4
精神遅滞以外の発達障害				2	3	2			7
人格障害							1		1
物質関連性障害					1				1
器質性精神障害									
その他									
計			8	39	37	34	8	4	130

(4) 精神保健福祉法に基づく指定医診察件数

件数	精神保健福祉法根拠条文						計
	23条	24条	25条	26条	26条の2	34条	
		17	13	1		1	32

2. 精神保健福祉相談

(1) 精神保健福祉相談状況

1) 相談者数

件数	月	H25									H26			計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
来所	新規実人数	23	24	14	19	19	36	19	19	20	11	13	58	275
	再来延人数	81	83	66	86	71	105	90	78	77	80	68	113	998
電話相談延人数		25	20	17	29	14	24	25	23	19	37	45	30	308
はあとライン		225	216	226	239	209	220	214	195	164	182	182	215	2,517
ナイトライン		881	889	866	890	832	786	775	771	780	777	685	771	9,633
訪問指導延件数		18	34	27	55	30	34	38	43	57	47	35	34	452

2) 新規相談来所経路

経路	人数
直接	139
病院	23
区保健福祉センター	20
児童相談所	0
学校	5
その他	88
計	275

3) 集団療法等の実施状況

集団療法等	回数	参加人数	
アルコール家族ミーティング	38	実 23	延 125
ひきこもり家族グループ	12	実 15	延 69
計	60	実 38	延 194

4) 新規相談の主訴別状況

主訴 性別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
	男	20	34	3	11	13	7	3	4	0	32	
女	16	32	1	4	22	4	0	2	0	9	36	126
計	36	66	4	15	35	11	3	6	0	41	58	275

上表「主訴」について

- 1：行動上の問題（ひきこもり、暴力など）
- 2：精神的悩み（ゆううつ、イライラなど）
- 3：身体的悩み（頭痛、動悸など）
- 4：学校不応（不登校など）
- 5：家族関係（育児、夫婦関係など）
- 6：地域職場不応（地域での対人関係など）
- 7：薬物等の依存（アルコールなど）
- 8：受診・受療（診察、病院紹介など）
- 9：検査（IQ、DQ等の検査など）
- 10：社会復帰（デイケア、就労など）
- 11：その他（退院促進支援、地域処遇困難、医療観察法など）

5) はあとライン（電話相談）の状況

日中帯の電話相談事業。開設時間帯は、月曜～金曜の午前 10 時～12 時および午後 1 時から 4 時までである（精神科医対応は金曜日 10 時～12 時）。

① 月別件数

相談者性別	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
男	103	69	69	75	68	54	59	61	52	49	66	87	812
女	127	133	137	147	122	144	137	109	102	114	97	101	1,470
不明	24	14	20	17	19	22	18	25	11	19	19	27	235
合 計	254	216	226	239	209	220	214	195	165	182	182	215	2,517
相談者住所	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
青葉区	9	12	14	8	9	10	5	6	7	7	8	10	105
宮城野区	1	0	0	3	1	3	3	4	4	2	2	3	26
若林区	1	0	0	3	5	2	1	0	1	0	1	2	16
太白区	3	3	4	1	3	4	5	2	3	4	2	1	35
泉区	7	7	4	3	6	8	3	12	10	10	13	7	90
市内不明	23	24	18	31	19	32	24	14	16	17	15	21	254
市外	16	14	12	16	14	13	22	20	20	14	9	18	188
不明	194	156	174	174	152	148	151	137	104	128	132	153	1,803
合 計	254	216	226	239	209	220	214	195	165	182	182	215	2,517
相談者年代	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
10代	0	2	1	1	0	3	2	2	0	0	2	3	16
20代	4	3	2	5	7	3	4	7	4	5	2	7	53
30代	17	14	14	21	16	20	21	20	17	14	22	22	218
40代	16	22	17	18	14	17	16	16	14	15	14	21	200
50代	8	3	13	4	9	11	7	9	4	12	13	11	104
60代	5	1	1	3	3	3	2	4	3	2	3	1	31
70代	4	8	13	5	8	3	8	4	3	5	6	6	73
80代	3	0	2	2	6	4	1	2	4	2	2	2	30
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
不明	197	163	163	180	146	156	153	130	116	126	118	142	1,790
合 計	254	216	226	239	209	220	214	195	165	182	182	215	2,517

(単位：件)

② 相談内容別件数

相談内容	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
老人精神保健	2	2	2	2	8	3	2	2	2	2	3	0	30
社会復帰	5	2	8	11	4	4	2	1	0	4	2	0	43
アルコール	2	1	0	0	0	1	1	0	2	1	1	0	9
薬物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
思春期 (青年期・20歳未 こころの健康づくり (20歳以上)	9	7	6	7	7	12	9	5	2	7	6	3	80
うつ・うつ状態	7	5	6	5	4	8	1	3	3	1	2	2	47
その他	107	65	70	73	66	64	69	67	52	51	61	82	827
合 計	254	216	226	239	209	220	214	195	165	182	182	215	2,517

(単位：件)

②-1 上記相談内容別の再掲

相談者性別	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
ひきこもり	3	1	2	2	2	1	2	0	0	0	1	2	16
自殺関連	0	1	1	1	0	0	3	3	1	0	1	0	11
犯罪被害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発達障害	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	8
虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DV	1	0	0	2	1	1	1	0	0	1	0	1	8
震災	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	3	3	10
合 計	7	4	4	6	3	2	9	3	2	1	6	6	53

(単位：件)

②-2 (内容詳細) 老人精神保健

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
老人の問題	10	0	0	0	13	1	9	1	0	1	8	4	47
医師による相談・セカンドオピニオン	1	2	2	2	3	2	1	1	2	1	1	0	18
合 計	11	2	2	2	16	3	10	2	2	2	9	4	65

(単位：件)

②-3 (内容詳細) 社会復帰

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
社会復帰の問題	3	1	6	9	3	1	0	1	0	3	2	0	29
デイ・ケアについての相談	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	5
精神障害者に対する関わり方 (家族指導等)	1	1	1	1	1	2	1	0	0	1	0	0	9
合 計	5	2	8	11	4	4	2	1	0	4	2	0	43

(単位：件)

②-4 (内容詳細) アルコール

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
アルコール関連問題	1	1	0	0	0	1	1	0	2	1	1	0	8
医師による相談・セカンドオピニオン	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
合 計	2	1	0	0	0	1	1	0	2	1	1	1	10

(単位：件)

②-5 (内容詳細) 薬物

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(単位：件)

②-6 (内容詳細) 思春期 (青年期・20歳未満)

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
被害妄想的な訴え	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神障害ではないかとの訴え	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	5	3	11
精神障害の治療の問題	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	4
いじめ	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
不登校	3	1	2	2	1	5	3	2	1	5	0	0	25
その他の学校不適応	2	0	2	0	0	1	1	1	1	0	1	0	9
家庭内暴力	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
非行・反社会的行動	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
食行動の異常 (拒食・過食)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
性格についての悩み	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	5
無気力・引きこもり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対人関係についての悩み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性についての悩み	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
生き方についての悩み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心氣的・身体的訴え	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	13	0	17
抑うつ的な訴え	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
強迫的な訴え	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
行動の異常	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4
医師による相談・セカンドオピニオン	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
その他	1	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	5
合 計	9	7	6	7	7	12	9	5	2	7	19	3	93

(単位: 件)

②-7 (内容詳細) こころの健康づくり (20歳以上)

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合 計
被害妄想的な訴え	10	3	13	5	4	3	1	0	1	7	9	8	64
精神障害ではないかとの訴え	1	2	1	0	1	4	3	3	4	5	7	0	31
精神障害の治療の問題	13	13	16	17	13	12	9	6	14	6	12	15	146
家庭内暴力	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	7
食行動の異常 (拒食・過食)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
性格についての悩み	0	0	1	1	3	0	2	0	0	1	0	0	8
対人関係についての悩み	11	9	10	16	19	16	23	15	7	12	17	22	177
性についての悩み	0	0	0	1	1	1	1	3	2	1	0	1	11
生き方についての悩み	6	8	2	4	6	10	9	7	10	12	12	11	97
仕事・職場についての悩み	11	10	15	13	11	11	14	19	7	15	1	10	137
出産・育児に関わる悩み	2		2	5	2	3		1	0	4	0	0	19
夫婦関係等家庭内の悩み	29	24	12	10	12	18	17	11	9	17	3	1	163
近隣とのトラブルについての悩み	3	1	2	5	2	4	4	4	5	1	1	1	33
心氣的・身体的訴え	4	7	6	4	7	0	3	2	4	2	2	0	41
抑うつ的な訴え	9	17	18	21	12	15	20	14	13	11	8	11	169
強迫的な訴え	0	7	3	1	0	0	0	1	0	1	4	0	17
無気力・引きこもり	1	0	0	0	3	2	2	1	1	1	0	9	20
行動の異常等	0	0	0	1	0	1	2	2	0	0	4	6	16
サラ金・ギャンブル等の問題	1	0	1	1	1	3	0	0	0	1	0	0	8
医師による相談・セカンドオピニオン	14	19	17	18	16	19	11	20	18	15	10	19	196
その他	6	12	14	17	7	6	8	7	9	4	3	8	101
合 計	121	134	134	141	120	128	130	117	104	116	94	125	1,464

(単位: 件)

②-8 (内容詳細) うつ・うつ状態

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合計
うつ・うつ状態	5	5	6	5	4	8	1	3	3	1	2	2	45
医師による相談・セカンドオピニオン	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
合計	5	7	8	5	5	8	1	3	3	1	2	2	50

(単位：件)

②-9 (内容詳細) その他

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合計
日常生活報告	18	23	26	19	19	21	27	29	20	13	45	48	308
セクテレ・迷惑	41	17	11	19	11	12	10	6	7	9	4	2	149
無言	17	16	22	19	13	16	19	18	10	20	0	0	170
その他	25	7	9	16	13	15	5	15	15	9	6	30	165
合計	101	63	68	73	56	64	61	68	52	51	55	80	792

(単位：件)

6) ナイトライン(電話相談)の状況

夜間・休日帯の電話相談事業として、(特非) 仙台市精神保健福祉団体連絡協議会へ委託実施。開設時間帯は、年中無休で午後6時から午後10時までである。

① 月別件数

相談者性別	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合計
男	246	311	344	351	352	295	305	314	308	299	259	279	3,663
女	380	394	302	364	317	321	314	308	342	336	267	324	3,969
不明	185	184	220	175	163	170	156	149	130	142	159	168	2,001
合計	811	889	866	890	832	786	775	771	780	777	685	771	9,633

相談者住所	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合計
青葉区	75	68	55	72	68	63	52	52	36	39	51	59	690
宮城野区	21	18	22	19	15	22	20	22	22	19	25	31	256
若林区	6	2	2	0	1	4	1	2	0	3	1	0	22
太白区	29	73	72	74	75	53	57	47	42	65	70	33	690
泉区	21	25	13	23	29	19	19	10	28	35	21	24	267
市内不明	54	62	64	67	57	65	59	67	72	75	64	77	783
市外	218	192	202	223	218	208	191	214	233	202	140	169	2,410
不明	387	449	436	412	369	352	376	357	347	339	313	378	4,515
合計	811	889	866	890	832	786	775	771	780	777	685	771	9,633

相談者年代	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合計
9歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10代	0	2	0	1	0	1	0	0	1	1	1	3	10
20代	13	16	18	32	21	12	12	14	8	11	11	15	183
30代	50	51	35	61	63	46	35	50	36	62	48	33	570
40代	250	215	173	196	167	144	143	116	138	131	113	121	1,907
50代	101	133	172	153	191	198	180	224	210	209	181	180	2,132
60代	6	3	6	9	8	6	7	4	3	1	4	5	62
70代	14	10	6	11	16	19	22	22	13	10	11	20	174
80代	0	0	1	0	0	2	1	0	1	2	2	0	9
90代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	377	459	455	427	366	358	375	341	370	350	314	394	4,586
合計	811	889	866	890	832	786	775	771	780	777	685	771	9,633

(単位：件)

② 相談内容別件数

相談内容	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合計
老人精神保健	1	2	1	0	1	2	0	1	2	1	0	3	14
社会復帰	2	1	0	4	0	3	0	0	2	2	0	0	14
アルコール	2	1	0	0	0	6	1	1	2	0	1	2	16
薬物	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ギャンブル	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2	1	9
思春期 (青年期・20歳未満)	6	5	2	6	0	3	3	1	1	2	4	5	38
こころの健康づくり (20歳以上)	362	396	357	379	364	345	392	328	373	351	312	361	4,320
その他	431	476	495	485	458	416	368	422	381	403	355	389	5,079
うつ・うつ状態	7	8	11	15	9	11	11	18	16	15	11	10	142
合計	811	889	866	890	832	786	775	771	780	777	685	771	9,633

(単位：件)

②-1 上記相談内容別の再掲

相談内容	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合計
ひきこもり	0	1	0	0	1	0	0	1	1	5	0	0	9
自殺関連	0	3	4	3	3	1	5	2	1	3	1	3	29
自殺者の遺族	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
犯罪被害	0	2	0	0	0	0	2	1	1	0	1	1	8
災害	0	0	0	0	0	0	0	6	7	3	5	6	27
DV	1	4	0	1	3	0	0	1	0	0	0	3	13
児童虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発達障害	2	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	9
合計	3	11	4	5	8	2	8	12	11	11	7	13	95

(単位：件)

②-2 (内容詳細) 老人精神保健

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合計
老人の問題	1	2	1	0	1	2	0	1	2	1	0	3	14
医師による相談・セカンドオピニオン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	2	1	0	1	2	0	1	2	1	0	3	14

(単位：件)

②-3 (内容詳細) 社会復帰

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26 1月	2月	3月	合計
社会復帰の問題	1	0	0	3	0	0	0	0	1	2	0	0	7
デイ・ケアについての相談	1	1	0	1	0	3	0	0	1	0	0	0	7
精神障害者に対する関わり方 (家族指導等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医師による相談・セカンドオピニオン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	1	0	4	0	3	0	0	2	2	0	0	14

(単位：件)

②-4 (内容詳細) アルコール

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	H26 3月	合計
アルコール関連問題	2	1	0	0	0	6	1	1	2	0	1	2	16
医師による相談・セカンドオピニオン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	1	0	0	0	6	1	1	2	0	1	2	16

(単位：件)

②-5 (内容詳細) 薬物

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	H26 3月	合計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳以上	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

(単位：件)

②-6 (内容詳細) 思春期 (青年期・20歳未満)

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	H26 3月	合計
被害妄想的な訴え	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神障害ではないかとの訴え	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
精神障害の治療の問題	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
いじめ	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
不登校	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	4
その他の学校不適応	3	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	8
家庭内暴力	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
非行・反社会的行動	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
食行動の異常 (拒食・過食)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性格についての悩み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無気力・引きこもり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対人関係についての悩み	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
性についての悩み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
生き方についての悩み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
心氣的・身体的訴え	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
抑うつ的な訴え	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
強迫的な訴え	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
行動の異常	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
医師による相談・セカンドオピニオン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	3	0	2	0	0	0	0	0	1	1	1	10
合計	6	5	2	6	0	3	3	1	1	2	4	5	38

(単位：件)

②-7 (内容詳細) こころの健康づくり (20歳以上)

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	H26 3月	合計
被害妄想的な訴え	20	19	41	33	49	42	54	42	36	33	29	28	426
精神障害ではないかとの訴え	3	5	4	1	1	0	2	2	0	3	2	3	26
精神障害の治療の問題	7	10	8	7	6	10	17	4	7	9	7	12	104
家庭内暴力	2	1	3	0	0	1	0	0	1	0	0	2	10
非行・反社会的行動	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	5
食行動の異常 (拒食・過食)	0	4	2	1	0	1	2	0	0	0	0	0	10
性格についての悩み	3	0	1	1	0	2	5	1	2	4	2	2	23

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	H26 3月	合計
対人関係についての悩み	40	49	42	55	45	46	53	39	71	59	36	62	597
性についての悩み	0	2	1	0	1	1	4	2	0	1	3	2	17
生き方についての悩み	17	24	28	28	18	25	34	45	36	31	21	27	334
仕事・職場についての悩み	71	51	38	34	45	52	40	28	34	49	37	39	518
出産・育児に関わる悩み	2	0	4	3	6	2	2	3	9	3	8	5	47
夫婦関係等家庭内の悩み	42	55	45	54	41	47	45	46	33	50	41	41	540
近隣とのトラブルについての悩み	6	3	1	2	1	8	1	3	1	0	3	6	35
心氣的・身体的訴え	11	17	14	16	13	11	15	10	16	10	27	32	192
抑うつ的な訴え	46	38	34	38	25	17	26	19	31	23	26	30	353
強迫的な訴え	8	11	5	20	18	8	18	29	23	18	16	18	192
無気力・引きこもり	0	3	3	5	3	0	2	2	1	3	2	5	29
行動の異常等	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
医師による相談・セカンドオピニオン	1	2	1	1	2	1	3	1	0	7	2	3	24
その他	81	101	81	78	89	69	69	50	71	47	49	44	829
合計	362	396	356	378	363	343	392	327	373	351	312	361	4,314

(単位：件)

②-8 (内容詳細) うつ・うつ状態

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	H26 3月	合計
うつ・うつ状態	7	8	10	15	9	10	11	18	16	14	11	10	139
医師による相談・セカンドオピニオン	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
合計	7	8	11	15	9	11	11	18	16	15	11	10	142

(単位：件)

②-9 (内容詳細) その他

相談詳細分類	H25 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	H26 3月	合計
日常生活報告	175	190	157	158	175	124	110	135	135	162	130	132	1,783
セクテレ・迷惑	7	6	3	4	4	2	7	7	7	5	3	5	60
無言	182	178	215	171	162	163	152	146	128	139	152	160	1,948
その他	67	102	120	152	117	127	99	134	111	97	70	92	1,288
合計	431	476	495	485	458	416	368	422	381	403	355	389	5,079

(単位：件)

(2) アルコール家族ミーティング

1) 目的

アルコール依存症の家族を対象とした集団療法。家族がアルコール関連問題についての知識や対応の仕方を学ぶとともに、安心安全な場で同じ悩みを抱える仲間と思いを分かち合うという経験を通して、家族や当事者が健康な生活を取り戻すことを目的としている。

2) 経過

昭和 63 年度に太白保健所で始まり、平成 10 年度からは仙台市福祉プラザを会場に精神保健福祉総合センター主催の事業として実施している。

毎週木曜日の午後 2 時から午後 3 時半に、担当職員（ファシリテーター、記録）と指導医が参加している。

3) 内容

指導医による約 30 分の講話（アルコール依存症の基礎知識、家族の対応の仕方、家族で集う意味など）と、約 1 時間の家族ミーティングという構成である。

家族ミーティングは、「1. プライバシー厳守」、「2. 言いつばなし・聞きつばなし」、「3. 主役は自分」という 3 つのルールを設け、参加者が順番に自らの体験や感情、考えなどを語り、互いの話に耳を傾ける。参加者どうしが意見を交わし合うことはないが、必要に応じて適宜指導医やファシリテーターが介入することもある。

平成 25 年度は 38 回開催。参加延べ人数は 125 名、1 回あたりの平均参加人数は 3.3 名であった。

4) その他

ミーティング終了後は毎回スタッフカンファレンスを実施し、セッションの振り返りを行っている。また、ミーティングへの新規参加にあたっては、原則的に各区保健所が窓口となっている。初参加時には区担当者が同行し、参加者の状況や今後の方針を検討・共有するため、ケースカンファレンスも実施している。

なお、各区保健所等においてアルコール関連問題に関わる職員のスキルアップを目的として、月末のミーティング終了後には指導医も交えた勉強会を開催している。

(3) ひきこもり関係事業

当センターにおける「社会的ひきこもり」への支援は、平成 11 年度から開始した。翌平成 12 年度には、「ひきこもり家族教室」（5 回 1 クール）を初めて開催し、その後、ひきこもり家族を対象としたグループを実施している。平成 16 年度には、広く一般市民を対象とした「ひきこもり講演会」を新たに企画し、ひきこもりへの支援を強化した。平成 22 年度には、ひきこもり当事者のグループを開始したが、グループ参加者が当センター以外へ活動の場を広げていったことから、平成 23 年度に発展的に解消することとなった。

1) ひきこもり講演会

開催日時	内容及び講師	参加人数
平成 25 年 8 月 10 日(土) 13:30～ 15:30	演題 「不登校とひきこもりについて考えよう ～私たちにできること～」 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター 愛育病院小児精神保健科部長 齊藤 万比古氏	108 名

本年度の参加者はひきこもり講演会の参加者の 6 割が女性で 40～50 代が多く、アンケート結果では「仕事に役立てたい」「具体的な不登校の対応を学びたい」と、支援者の参加も推察されるが、市民の関心の高さがうかがわれる。

2) ひきこもり家族教室

開催日		内 容	参加人数
前 期	第1回 平成25年 9月3日	①講話「ひきこもりとは何でしょう」 講師 当センター 所長 林みづ穂(精神科医) ②グループワーク	14人
	第2回 9月10日	①講話「ひきこもりの理解とその対応」 「ひきこもりの方のための相談窓口」 講師 当センター 臨床心理士 伊藤晃代 ②グループワーク	14人
後 期	第1回 平成26年 2月25日	①講話「ひきこもりとは何でしょう」 講師 当センター 所長 林みづ穂(精神科医) ②グループワーク	8人
	第2回 3月4日	①講話「ひきこもりの現状と家族の対応」 講師 当センター 臨床心理士 安曇真紀 ②グループワーク	7人

当事者の年齢は、19～23歳が7割を占め、不登校や若年ケースの参加が多くみられた。参加者はその後、すべて個別相談と家族グループミーティングにつながっている。社会的ひきこもり以外にも、背景に統合失調症や発達障害を抱えたケースなどもみられた。講話に関しては、約8割が「満足」と回答している。

3) ひきこもり家族グループ

日時・担当者：毎月第2・4金曜 13:30-15:00 (4月～6月)

毎月第3木曜 10:00-11:30 (7月以降) 臨床心理士2名

内容：講話(30分) + 話し合い(1時間)

実施回数	参加実人数	参加延べ人数	平均参加者数
15回	15名	69名	4.5名

例年月2回で実施してきたが参加人数に偏りがあり、運営頻度の見直しが課題となっていた。4月～6月に参加者にアンケート調査を実施し、7月から頻度と時間帯の変更を行ったところ平均人数が3.7人→5.2人に増加し、間欠的な参加も減り、継続的な参加者が増加している。

4) 関係機関連絡会議

○ひきこもり地域支援センター情報交換会

実施月	講話のテーマ
平成 25 年 5 月	意見交換
8 月	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会についての報告・当センターのひきこもり支援状況について、事例検討
10 月	不登校・ひきこもり地域相談会報告
12 月	不登校・ひきこもり地域相談会報告
平成 26 年 3 月	事例報告

仙台市ひきこもり地域支援センター、健康福祉局障害者支援課、北・南部発達相談支援センター等と具体的な個別事例への対応等について意見交換を行っている。

○ひきこもり支援連絡協議会

実施月	講話のテーマ
平成 25 年 6 月	意見交換
10 月	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会についての報告・当センターのひきこもり支援状況について、事例検討
平成 26 年 1 月	事例報告

ひきこもり情報連絡会議の構成機関に加えて、児童相談所や教育委員会（適応指導センター）等の機関も交えて意見交換をおこなっている。

(4) 職場のメンタルヘルス支援事業

1) 職場のメンタルヘルス相談

市内事業所(管理者および従業員)を対象とした支援を実施している。

相談件数 11 件 (内訳) 講師派遣： 9 件
来所相談： 2 件

宮城県中小企業家同友会広報誌への記事連載 (年 4 回)

「経営者に必要なメンタルヘルスの基礎知識」について講義

3. 精神科デイケア

(1) デイケアの概況

当センターのデイケアは、昭和 58 年度の開所以来、市内の医療機関から患者紹介を受け実施している。回復途上にある精神障害者が自立した生活が送れるようになることを目的に、生活習慣の確立や社会参加・社会復帰促進のための生活指導や作業指導を実施している。特徴としては、単なる居場所ではなく数年で他の社会復帰施設への移行や就労等へのステップアップを目指す目的意識を持った「通過型」である。

精神科に通院治療している概ね 15 歳以上の仙台市民を対象に、平成 23 年度までは、一日 6 時間、週 4 日定員 60 名の大規模「精神科デイ・ケア」のみで実施してきた。平成 18 年の障害者自立支援法施行後は、本市の障害者福祉計画による整備が進み、就労移行支援や就労継続支援（A・B 型）等、日中活動系サービス事業所数の増加やその活動内容の多様化等により、着実に精神障害者の選択の幅が広がってきている。当センターのデイケアでも所外社会体験や SST・心理教育等のプログラム等に力点を置き、在籍しながら次の移行先事業所への重複通所を支援し、着実なステップアップを図ってきた。

通所者の状況として、疾患別人数に変化があり、統合失調症の方の利用者数に比べて、うつ病や強迫性障害、不安障害等神経症圏が増える傾向にある。また、なかなか一日 6 時間から始められない通所者も増えている。平成 24 年度からは一日 3 時間の「ショート・ケア」を取り入れ、少しずつ生活リズムを整え、滞在時間を延長していくなど柔軟なデイケア利用も可能にしたところ通所者延人数が増加した。

うつ病で休職中の方の復職準備性を高める新たなコースとして、平成 22 年 7 月から試行開始し、平成 23 年度からは、定員 10 名・週 2 日（平成 23 年 2 月から）・4 ヶ月間に限定したデイケアとして本格実施した「リワーク準備コース」は、うつ状態を改善し社会参加のための自己回復力を高めるように心理教育や認知行動療法を用い、一定の効果が得られている。

(2) デイケア指導状況

1) 指導期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

2) 指導日数：185 日（毎週月・火・木・金。祝日等を除く。リワーク準備コースは毎週月・木のみ）

3) 通所状況：詳細は表 1 の通り。年間の通所者延数は 3,324 人であり（「就労支援・社会参加コース」は 2,845 人、「リワーク準備コース」は 479 人）、平均在籍者数は 41 名で、定員に対する充足率は 68.3%であった。

表 1 平成 24 年度 デイケア通所状況

コース別	通所者実数			新規通所者実数（再掲）			終了者実数（再掲）		
	計	就労支援	リワーク	計	就労支援	リワーク	計	就労支援	リワーク
総数	67	46	21	37	19	18	19	6	13
男性	43	23	20	27	10	17	14	2	12
女性	24	23	1	10	9	1	5	4	1

4) デイケア通所者の受理から終了までの流れ

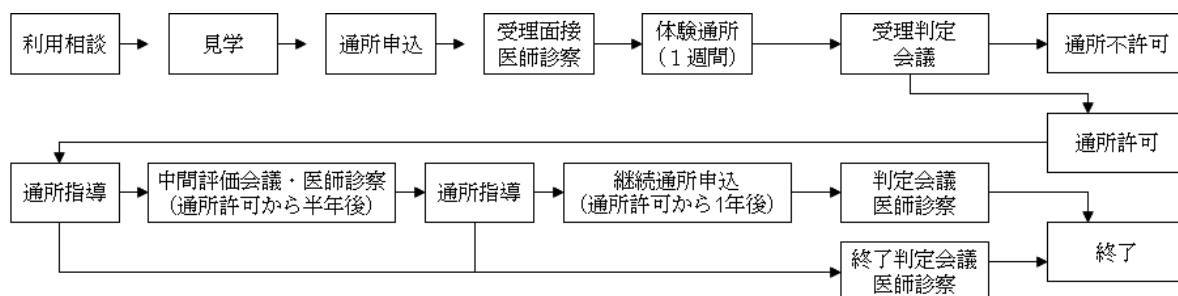


図1 デイケア通所者の受理から終了までの流れ

(3) 就労支援・社会参加コースの指導内容

1) 通所者の特性 (再通所者含む 46名)

ア. 疾患別分類

疾患については表2の通りである。統合失調症は22名(47.8%)と半数に満たない状況が継続し、うつ病や不安障害・強迫性障害等の神経症圏の増加傾向は引き続けている。また、発達障害等も少数ながら横ばい傾向である。

表2 疾患別分類

疾患名	人数
統合失調症	22
不安障害	7
うつ病等	7
神経症	2
広汎性発達障害	2
恐怖症性不安障害	2
適応障害	1
双極性障害	1
強迫性障害	1
解離性障害	1
合計	46

イ. 年齢 (対象年齢 15歳～)

年齢については、図2の通りである。平均年齢は34.5歳、最年少は20歳、最年長は49歳である。

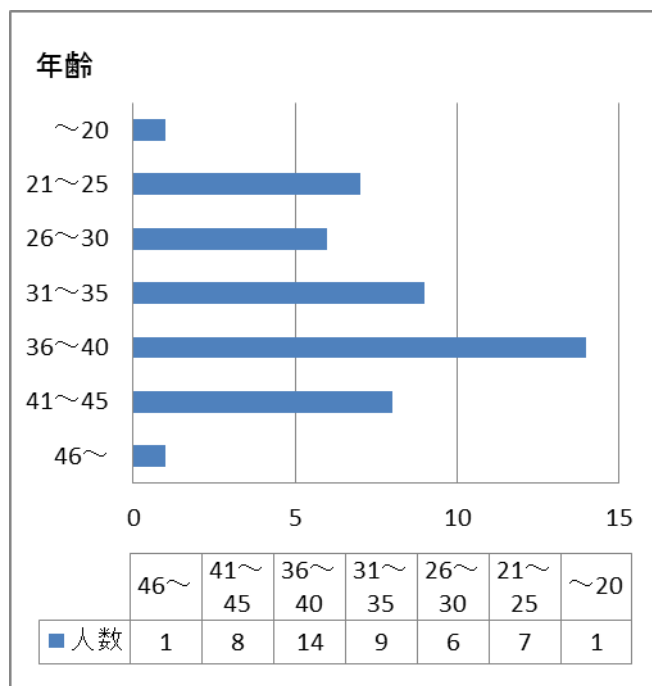


図2 年齢

ウ. 利用経路

利用経路は表3の通りである。医療機関からの紹介は19名（41.3%）、インターネットのホームページを見て自主来所する方が7名（19.6%）である。

紹介経路	人数
病院、クリニック	19
家族・親戚のすすめ	8
自主来所	7
区役所	2
社会復帰施設等	1
その他	9
合計	46

エ. 発病年齢

発病年齢は図3の通りである。発病平均年齢22.0歳、20歳まで26名（56.5%）が発病している。

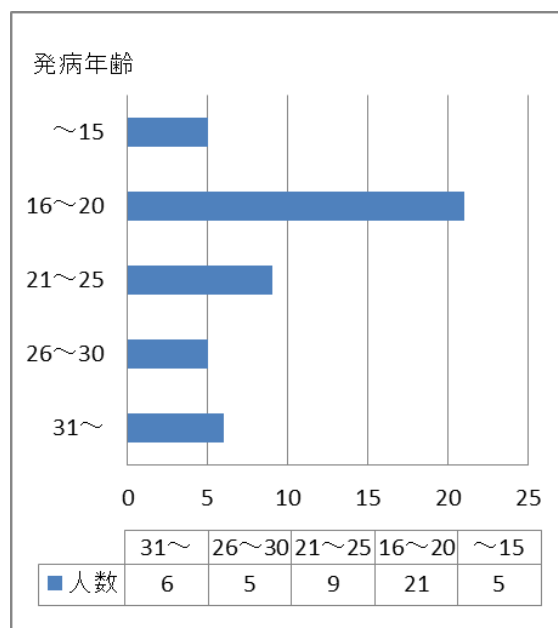


図3 発症年齢

オ. 入院回数

入院回数は図4の通りである。入院歴なし19名（41.3%）、入院歴あり27名（58.7%）となっている。入院歴ありのうち、入院1回が14名（30.4%）と最も多い。

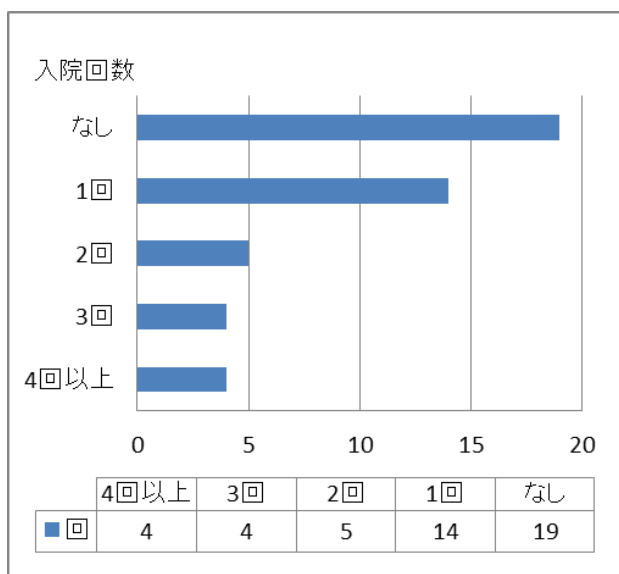


図4 入院回数

カ. 罹病期間

通所開始時の罹病期間は図5の通りである。通所開始まで7年～9年以内の罹病期間が14名（30.4%）、3年以内が8名（17.4%）、10年以上が18名（39.1%）となっている。

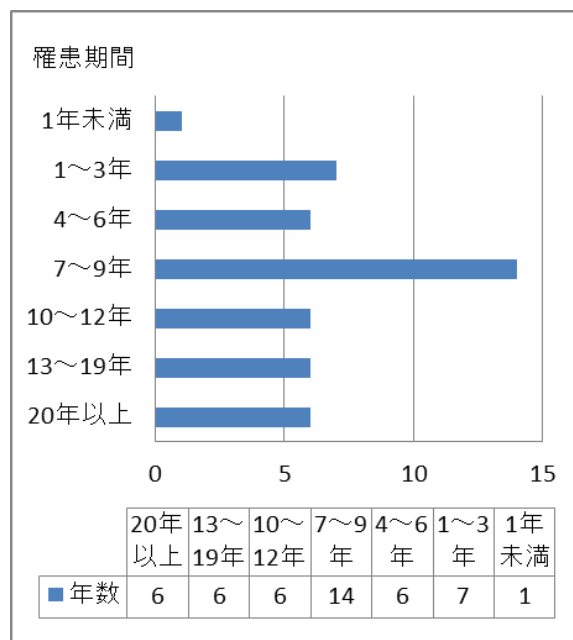


図5 罹病期間

キ. 学歴

学歴は表 4 の通りである。高校卒者が 11 名 (23.9%)、専門学校以上の学校に進学している者 (休学中を含む) は 28 名 (60.9%) となっており、中退者 (高校・専門学校・短大・大学) は 12 名 (26.1%) である。

学歴	人数
中学卒	1
高校中退	6
高校卒	11
専門学校中退	1
専門学校卒	10
短大卒	4
通信大学中退	1
大学中退	4
大学卒	5
その他(休学中等)	3
合計	46

ク. 紹介元

紹介元は表 5 の通りである。民間病院が 23 名 (50.0%) と最も多く、次いでクリニックが 18 名 (39.1%) である。

紹介元	人数
クリニック	18
民間病院	23
公立病院	1
精神保健福祉センター	4
合計	46

ケ. 保険

保険区分は表 6 のとおりである。国民健康保険が 16 名 (34.8%)、社会保険が 16 名 (34.8%) と同数で多くなっている。生活保護は 8 名 (17.4%) と毎年増加傾向である。

区分	人数
生活保護	8
社保(本人)	2
社保(被扶養者)	14
国保(本人)	3
国保(被扶養者)	13
共済(本人)	1
共済(被扶養者)	4
医師国保(被扶養者)	1
合計	46

コ. 精神障害者手帳の取得状況

精神障害者手帳の取得状況は表 7 の通りである。手帳なしは 14 名 (30.4%)、手帳ありは 32 名 (69.6%) であり、手帳取得者が徐々に増えている。

区分	人数
手帳なし	14
手帳あり	32
1級	(2)
2級	(22)
3級	(8)
合計	46

サ. 家族状況

家族状況は表 8 のとおりである。28 名（60.8%）が両親と同居している。単身生活者は 11 名（23.9%）である。

同居家族	人数
両親	22
両親とその他親族	6
片親	3
配偶者と子ども	1
子ども	2
交際者	1
単身	11
合計	46

シ. 利用期間

利用期間は図 6 の通りである。1 年～2 年未満が 9 名（19.6%）、1 年未満が 17 名（37.0%）である。4 年以上利用している通所者は 10 名（21.7%）であり、平均利用期間は 2 年 2 ヶ月である。

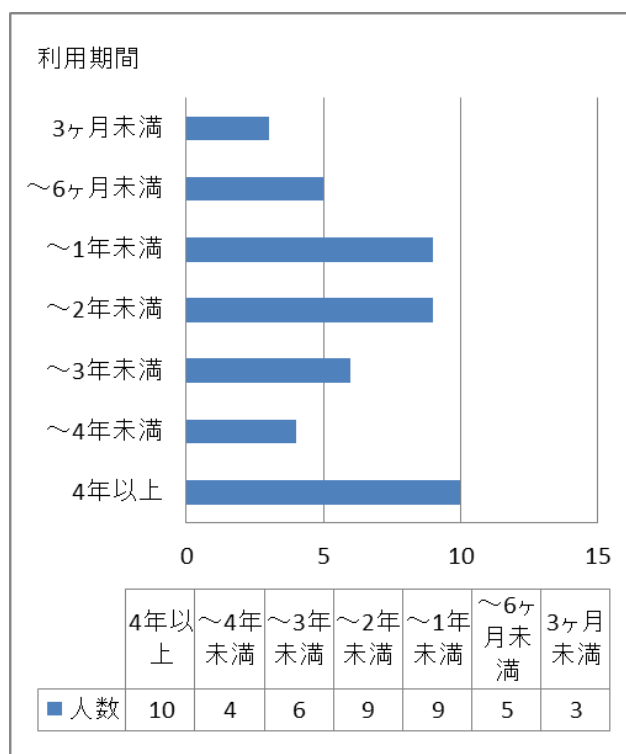


図 6 利用期間

ス. 住居地

通所者の住居地は表 9 の通りである。

区	人数
青葉区	17
宮城野区	9
若林区	4
太白区	8
泉区	8
合計	46

セ. 終了状況（所属及び在籍期間）

終了者は46名中6名（13.0%）である。社会復帰群は6名中3名（50.0%）で、次のステップとしての就労系施設への移行が2名、進学が1名であった。就労系の施設へ移行している方は4年以上、復学した方は約2年の通所期間を要している。終了者の最長在籍期間は6年、最短在籍期間は11ヶ月、平均在籍期間は3年6ヶ月となっている。

表10 終了時の所属及び在籍期間

		在籍期間				計
		1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3年以上	
終了時所属	社会復帰群	就労				
		就労移行支援				1
		就労継続支援A型				
		就労継続支援B型				1
		宿泊型自立訓練・自立訓練				
		地域活動支援センター				
		進学			1	
		自助グループ				
		保健福祉センター				
		その他				
	家事手伝い					
	療養専念	通院				
		入院				
	意志喪失			1		1
他のデイケア移行		1				
計		1	1	1	3	

2) 週間プログラム

プログラムは週単位を基本（表11）とし、定期的に講師を招くもの、職員が企画・運営するもの、通所者の自主性に任せるものを織り混ぜた内容で実施している（表12）。

クラブ活動は、通所者が選択したものを半年間継続的に取り組むこととしている。

平成19年度より開始した生活自立コースは申し込み者がなく、プログラムとしての活動はなかった。

当デイケアは、集団プログラムだけではなく、個別の支援にも力を入れており、近年は、デイケア終了後を見据えて、地域の社会資源の見学同行、就労訓練先への事業所訪問などもしている。また必要に応じて家庭訪問を実施するが、平成25年度の実績はない。

表11 平成25年度週間プログラム

	月	火	水	木	金
午前	クラブ活動 ・陶芸 ・スポーツ	料理(月1回) 面接・診察 サークル活動		クラブ活動 ・手工芸 ・テニス	クラブ活動 ・パソコン ・軽音楽
午後	Monday Time ♪	SST		課題別プログラム	セルフサポート塾
	生活自立コース				生活自立コース

表 12 各プログラムのねらいと内容詳細

月曜日午前	
<p>陶芸</p> <p>実施回数：40</p> <p>選択者数：21</p> <p>職員数：1</p> <p>定期講師：あり</p>	<p>●ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を創り上げる喜びや達成感を得、自信をつける ・「失敗してもやり直せる」という経験から安心感を得る <p>●内容および活動の概要</p> <p>平均参加人数は5～6名。多い時は10名程度になる。参加人数は増加している傾向にある。講師の指導のもと、自由に作品を作りながら粘土の練り方、手順、色付けの仕方等を学んでいった。窯入れは7月、10月、2月の3回実施。</p>
<p>スポーツ</p> <p>実施回数：40</p> <p>選択者数：23</p> <p>職員数：1</p> <p>定期講師：なし</p>	<p>●ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通して協調性、自発性、仲間意識などの向上を図る ・スポーツの楽しさを体験し、技能向上により自信をつける ・運動不足の解消、健康増進を図る <p>●内容および活動の概要</p> <p>平均参加人数は8～9名。活動は室内競技が中心である。種目はプログラム参加者が中心となって決めており、時間内に休憩をはさみ2～3種目行うことが多い。人気の高かった種目としては、卓球やダーツ、バドミントン、ボッチャがあげられる。</p>
月曜日午後	
<p>Monday Time ♪</p>	<p>通所者全員によるミーティングの場。Monday Time ♪という名称は通所者からの公募で選ばれた。主に、デイケア行事や、料理の献立を話し合う時間として利用した。話し合いのテーマがない場合は、メンバーの希望により余暇的活動に充てた。</p>
火曜日午前	
<p>料理</p> <p>実施回数：22</p> <p>希望者が参加</p> <p>職員数：2</p> <p>定期講師：あり (隔月、管理栄養士)</p>	<p>●ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理の基本的な知識と技術を身に付ける ・グループで料理を作り会食することで一体感を得る <p>●内容および活動の概要</p> <p>隔月で講師（管理栄養士）が入り、作成された献立に沿って料理を作る。講師が入らない月は事前に決められているテーマ（表参照）に沿って献立作りから行った。また今年度は「ゼミナール」というプログラムと連動させ、管理栄養士から講義を受けた後、栄養のバランスに配慮した献立作りも行った。</p>

	<p>〈講師が入らない月の献立のテーマ〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 24 年 5 月</td> <td>旬の食材を使ってみよう</td> </tr> <tr> <td>7 月</td> <td>夏バテ対策のメニューを考えてみよう</td> </tr> <tr> <td>9 月</td> <td>栄養バランスのとれた献立づくりをしよう！</td> </tr> <tr> <td>11 月</td> <td>芋煮会をしよう（デイケア祭の打ち上げ！）</td> </tr> <tr> <td>平成 25 年 1 月</td> <td>サプライズクッキング （冷蔵庫にある物で料理を作ります）</td> </tr> <tr> <td>3 月</td> <td>一人分のチャーハンを作ってみよう</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	テーマ	平成 24 年 5 月	旬の食材を使ってみよう	7 月	夏バテ対策のメニューを考えてみよう	9 月	栄養バランスのとれた献立づくりをしよう！	11 月	芋煮会をしよう（デイケア祭の打ち上げ！）	平成 25 年 1 月	サプライズクッキング （冷蔵庫にある物で料理を作ります）	3 月	一人分のチャーハンを作ってみよう
実施月	テーマ														
平成 24 年 5 月	旬の食材を使ってみよう														
7 月	夏バテ対策のメニューを考えてみよう														
9 月	栄養バランスのとれた献立づくりをしよう！														
11 月	芋煮会をしよう（デイケア祭の打ち上げ！）														
平成 25 年 1 月	サプライズクッキング （冷蔵庫にある物で料理を作ります）														
3 月	一人分のチャーハンを作ってみよう														
診察	<p>定期診察（1年の利用期間中6ヶ月目、12ヶ月目）、新規通所受理及び終了時診察、臨時診察の3つに大別される。主に医療情報を得るために実施しており、それらを基に医学的アプローチやデイケア効果等の検討、評価を行っている。臨時診察に関しては、緊急時や必要に応じて職員が要請して実施している。</p>														
面接	<p>週1回実施。通所者が担当職員と個別に話し合える場を確保するため、プログラムに組み込んでいる。様々な不安や焦り、悩み等を聞き、通所者を取り巻く状況を把握したり、デイケア利用の目的や目標の確認及び将来の方向性を一緒に考えたりする。この枠に限らず必要に応じて臨時面接も実施している。</p>														
サークル活動	<p>●ねらい 活動内容を方向づけ、緩やかな枠を設けることによって自由時間への抵抗を減らし、自主的な活動を促す</p> <p>●内容及び活動の概要 診察・面接の空き時間に実施。2人以上の参加者が集まれば活動が成立するサークル活動の場とした。活動内容としては、読書、お話、バンドが多く、時期によってはスポーツ（サッカー、バレーボール）もみられている。参加人数は全体で最少4名、最大11名程度となっている。活動の最後にはサークル毎に参加者、活動内容、感想を記入してもらい、その日の活動の振り返りとした。</p>														
火曜午後															
SST	別項（心理教育）にて記載														
実施回数：27															

木曜午前	
<p>手工芸</p> <p>実施回数：41 選択者数：31 職員数：1 定期講師：あり</p>	<p>●ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中力、持続力の向上を図る ・作品作りを通して相互交流を図る機会をもつ ・作品作りを通して達成感を得て自信につなげる <p>●内容および活動の概要</p> <p>平均参加人数は9名。今年度よりリワーク準備コースの通所者と合同で実施した。各々興味のある作業に取り組むが、革細工講師の指導を受けているため、革細工に取り組む参加者が多かった。簡単に作れる小物から導入し、創作意欲が高まるにつれ財布やペンケース、ブックカバーといった作業工程の多い大作に取り組む参加者もいた。革細工のほかには、プラモデル、デッサン、編み物、組みひもなどの作業も行った。</p>
<p>テニス</p> <p>実施回数：41 選択者数：12 職員数：1 定期講師：あり</p>	<p>●ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上や健康増進を図る ・技術を向上させ、自信の回復を図る ・テニスを通して協調性、仲間意識などの向上を図る <p>●内容および活動の概要</p> <p>平均5～6名の参加で男性の割合が多かった。講師が中心となり、はじめは基礎練習（ストローク練習）、その後ダブルスで試合を実施。雨天時は屋内で卓球やミニテニスを行なった。</p>
木曜午後	
<p>課題別プログラム</p> <p>実施回数：30 希望者が参加 職員数：4 定期講師：なし</p>	<p>●ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの持つ課題の克服に向けて活動する ・ワーキングコースでは就労に向け社会経験を積む ・ライフワークコースでは生活能力の向上を目指す <p>●内容および活動の概要</p> <p>利用者それぞれが自分の持つ課題に合わせコースを選択。ワーキングコースでは事業所見学やボランティア活動を行った。ライフワークコースでは生活力の向上を目指し、金銭管理や収納の仕方など生活に根差した活動を行った。</p>

実施日	内容	実施日	内容
平成 25 年 5 月 2 日	グループワー ク／周辺散策	10 月 31 日	デイケア祭準備
5 月 16 日	外食／ ミーティング	11 月 14 日	宮城職業セン ター／一人分 のご飯づくり
5 月 30 日	施設見学／ 資材購入	11 月 21 日	ハローワーク ／入浴剤作り
6 月 6 日	ごみ拾い／ 棚作り	11 月 26 日	中期振り返り
6 月 20 日	社会資源／ 棚作り	12 月 5 日	キャップの集計
6 月 27 日	施設見学／ 日常の裏技	12 月 12 日	社会資源
7 月 4 日	職場体験／ 外食	12 月 19 日	一人暮らし
7 月 18 日	外食／ 防災対策	平成 26 年 1 月 9 日	事業所見学
7 月 25 日	工場見学／ 前期振り返り	1 月 23 日	事業所見学
9 月 5 日	社会資源講義	1 月 30 日	見学振り返り
9 月 12 日	未来をイメージ	2 月 6 日	ビジネスマナー
9 月 19 日	ごみの分別	2 月 20 日	老人ホーム訪問
9 月 26 日	作業所見学／ お金のやりくり	2 月 27 日	発表練習
10 月 10 日	身だしなみ	3 月 6 日	老人ホーム発表
10 月 24 日	職業体験／ 片づけ	3 月 13 日	後期振り返り

金曜午前

<p>軽音楽</p> <p>実施回数：38</p> <p>選択者数：16</p> <p>職員数：2</p> <p>定期講師：あり</p>	<p>●ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が担当する楽器の演奏技術を向上させ、役割や責任を果たす ・皆で一つの曲を作り上げ、達成感、充実感を得る <p>●内容および活動の概要</p> <p>平均参加人数は 5 名前後。プログラム参加者各々がリクエスト曲をギター・キーボード・パーカッション等で演奏した。リクエストした曲は、自分でボーカルを務める、またはパーカッションやギター等の演奏をメインで行っている。メインでボーカル、または演奏を行わないプログラム参加者は、各々好きな楽器で合奏するという形で練習をした。今年度は、所外では 6 月に「とっておきの音楽祭」、10 月に「若林</p>
--	---

	<p>区健康フェスティバル」所内では「デイケア祭」、「春季パーティー」で発表の場を設けた。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">「とっておきの音楽祭」ーデイケア外の活動への参加</p> <p>このイベントへは第一回から連続して 13 回目の参加であった。毎年プログラム参加者は少しずつ変わってきているが、回を重ねるごとに事前の打ち合わせ会にもプログラム参加者が参加するなど主体的な動きが定着してきている。当日は勾当台公園内の野外ステージにおいて、とっておきの音楽祭に向け練習してきた曲を 4 曲披露した。最後の一曲として、デイケアメンバーから歌詞を集め講師が作曲したオリジナル曲「ひとりじゃない」を演奏し一体感を感じることができた。当日は軽音楽クラブ以外の通所者、OB、家族や職員の応援もあり、緊張しつつも明るく落ち着いた雰囲気の中で演奏することができた。演奏終了後は打ち上げ昼食会を行い、お互いの労をねぎらった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">「若林区健康フェスティバル」ー依頼を受けての参加</p> <p>このイベントへの初の参加であった。主催者側から依頼を受け屋内ホールでの初の発表となった。初めて相手方に出向いての発表であったため、参加者には緊張の色が濃かったが、練習の成果を十分に発揮しての堂々とした発表となった。オリジナル曲を含めた 5 曲を披露。温かい雰囲気の中で好評を得た。当日は軽音楽以外の通所者、家族や職員の応援もあり、緊張を抱えながらも演奏することができた。</p> </div>
<p>パソコン</p> <p>実施回数：38</p> <p>選択者数：20</p> <p>職員数：2</p> <p>定期講師：なし</p>	<p>●ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中力を身に付ける ・役割を担い責任をもって仕事をこなすことで自信をつける <p>●内容および活動の概要</p> <p>一人 1 台パソコンを使用し、個人の能力に応じて課題を設定した。初級の通所者は簡単な Word や Excel の課題に取り組んだ。またスキルが高い通所者には、デイケア活動で使用するプリント類の作成を依頼し、完成したプリントを随時ホワイトボードに貼り出すことで、他の通所者にも見てもらえるよう工夫した。</p>
<p>金曜午後</p>	
<p>セルフサポート塾</p> <p>実施回数：33</p>	<p>別項（心理教育）にて記載</p>

その他																															
季節のお茶会 実施回数：6 希望者が参加 職員数：4 外部講師：あり	<ul style="list-style-type: none"> ●ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・集中力を身に付け、基本的な礼儀作法を学ぶ ●内容および活動の概要 <p>適度な緊張感があり、他のプログラムとは違った雰囲気があることから好みは分かれる傾向にあるが、平均参加者数は10名であった。回を重ねるごとに、人をもてなす心や相手を気遣う心が養われ、事前準備にも積極的に参加する様子が見られた。</p> 																														
ゼミナール 実施回数：14 希望者が参加 職員数：4 外部講師：あり	<ul style="list-style-type: none"> ●ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・生活、就労、余暇（リラクゼーション）に関する知識を得たり、体験をすることで、日常生活の充実や見直しを図る機会とする ・デイケア卒業後のイメージ作り等に役立てる ●内容および活動の概要 <p>外来講師を招いて実施。各回の実施内容（下表参照）は通所者と共に考えたものである。普段のプログラムとは違い、内容・講師がその都度入れ替わることから、程よい緊張感を持ちながら、知識の習得や体験ができていた。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">実施日</th> <th style="text-align: center;">プログラム内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 25 年 4 月 30 日</td> <td>畑作り（夏野菜の植え方、育て方）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6 月 24 日</td> <td>ヨガ①（リワーク準備コースと合同）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6 月 25 日</td> <td>体力チェック</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7 月 11 日</td> <td>アニマルセラピー（リワーク準備コースと合同）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7 月 30 日</td> <td>就労に関する社会資源について</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8 月 27 日</td> <td>バランスのとれた献立作り</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9 月 17 日</td> <td>OB 体験談</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10 月 28 日</td> <td>ヨガ②（リワーク準備コースと合同）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11 月 28 日</td> <td>カラーコーディネイト</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12 月 17 日</td> <td>アニマルセラピー（リワーク準備コースと合同）</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年 2 月 4 日</td> <td>上手な文章の書き方</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 月 14 日</td> <td>チョコレート作り</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 月 24 日</td> <td>ヨガ③（リワーク準備コースと合同）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3 月 20 日</td> <td>アロマハンドマッサージ</td> </tr> </tbody> </table> 	実施日	プログラム内容	平成 25 年 4 月 30 日	畑作り（夏野菜の植え方、育て方）	6 月 24 日	ヨガ①（リワーク準備コースと合同）	6 月 25 日	体力チェック	7 月 11 日	アニマルセラピー（リワーク準備コースと合同）	7 月 30 日	就労に関する社会資源について	8 月 27 日	バランスのとれた献立作り	9 月 17 日	OB 体験談	10 月 28 日	ヨガ②（リワーク準備コースと合同）	11 月 28 日	カラーコーディネイト	12 月 17 日	アニマルセラピー（リワーク準備コースと合同）	平成 26 年 2 月 4 日	上手な文章の書き方	2 月 14 日	チョコレート作り	2 月 24 日	ヨガ③（リワーク準備コースと合同）	3 月 20 日	アロマハンドマッサージ
実施日	プログラム内容																														
平成 25 年 4 月 30 日	畑作り（夏野菜の植え方、育て方）																														
6 月 24 日	ヨガ①（リワーク準備コースと合同）																														
6 月 25 日	体力チェック																														
7 月 11 日	アニマルセラピー（リワーク準備コースと合同）																														
7 月 30 日	就労に関する社会資源について																														
8 月 27 日	バランスのとれた献立作り																														
9 月 17 日	OB 体験談																														
10 月 28 日	ヨガ②（リワーク準備コースと合同）																														
11 月 28 日	カラーコーディネイト																														
12 月 17 日	アニマルセラピー（リワーク準備コースと合同）																														
平成 26 年 2 月 4 日	上手な文章の書き方																														
2 月 14 日	チョコレート作り																														
2 月 24 日	ヨガ③（リワーク準備コースと合同）																														
3 月 20 日	アロマハンドマッサージ																														

3) 年間行事

概ね月1回の頻度で実施し、日常のデイケア活動に彩りを添えているのが年間行事である。通所者の中には、家族や友人と出掛ける機会が少ない者もあり、日頃できないことが体験できるよい機会であるため、行事参加を楽しみにしている者も多い。年間行事の運営にあたっては、通所者の主体性を大切にしながら、各自に役割を担ってもらい、役割遂行による達成感の獲得や、自己肯定感の向上につながるよう工夫しながら進めている。平成25年度の年間行事の実施状況は表13のとおりである。

表13 年間行事実施状況

開催日	行事名	内容	参加人数
平成25年 4月25日	全体活動	施設周辺でお花見を兼ねたバーベキューを行ったあと、オリエンテーリングを実施した。	15
5月31日	メンタルネットワーク in 仙台 第22回スポーツ大会	仙台市内のデイケアや福祉関連施設が集まり、スポーツを通して交流を図る毎年恒例の行事。全5種目の競技のうち、当デイケアは、卓球、ボッチャ、ソフトバレーボールに出場した。 大会自体は総勢516名の参加があった。	13
6月14日	野外活動 (バス旅行)	石巻方面。石ノ森漫画館見学、その後天平ロマン館で、砂金採りや、歴史館を見学した。	17
7月5日	グループ活動	施設内でDVD鑑賞やゲームをして過ごすグループと、外出して動物園へ行くグループに分かれて活動をした。	13
8月29日～ 8月30日	宿泊訓練	山形方面 1日目は山寺を散策後、チェリーランド寒河江を経て、月山のふもとのコテージに宿泊。夕食は自分たちで準備しバーベキューを行った。2日目は庄内映画村を見学した。参加前は、家を離れ宿泊することや、団体での行動に不安を抱いていたメンバーも、無事参加できたことで達成感や自信の回復につながったようだ。	14
9月13日	仙精連 大運動会	市内の福祉関連施設が集まり、パン食い競争や玉入れ、借り物競争、綱引きなどで競い合った。お互いの交流も図れ楽しい時間が過ごせた。	17
10月3日	全体活動	ハロウィンパーティと銘打って、カボチャを意識したメニューで調理し会食、午後はDVD鑑賞をした。	17
10月25日	仙台市 障害者バレーボール大会	出場選手をつのり、デイケア活動の中で練習を重ね臨んだ。残念ながら勝ち進むことはできなかったが、選手はそれぞれ持てる力を十分発揮できていたようだ。選手以外は応援で試合を盛り上げた。	14

11月8日	デイケア祭	日頃のデイケア活動の成果を発表する場として毎年開催している。お茶席や陶芸・革細工の体験コーナー、バザー、作品展示の他、軽音楽の発表、ゲームなどで他デイケアとの交流も図った。来場者は一般の方も含め約220名にのぼり盛大な祭となった。	22
12月26日	忘年会	デイケア祭の売り上げを使用して、昼食会、ゲーム大会、プレゼント交換を行った。	21
平成26年 1月16日	全体活動	午前は杵と臼を使ってのもちつき大会。午後は書初めをしてお正月の行事を楽しんだ。	16
2月13日	グループ 活動	施設内でDVD鑑賞するグループと、外出して映画を見に行くグループに分かれ活動した。	16
3月25日	春季 パーティー	午前は所内で昼食を作り食事会、午後はゲームや軽音楽発表を行った。軽音楽発表には家族の方の参加もあった。日頃お世話になっている外来講師も招待し、皆で書いた感謝の手紙を渡した。	21

4) 心理教育

①「セルフサポート塾」

平成19年度より実施し、定期的に医師が参加するプログラムとしている。疾患についての知識を伝える機会としてだけでなく、リハビリを基礎とする心理教育を行うことにより、参加者の自己肯定感を高め、疾患の受容や今後の疾患との付き合い方について考えることを目的としている。実施状況は表14のとおりである。

表14 「セルフサポート塾」実施状況

開催日	内容（前期）	参加人数	開催日	内容（後期）	参加人数
平成25年 4月5日	オリエンテーション	10	11月15日	金サポ⑤	12
4月12日	リハビリについて	11	11月22日	仕事について①	13
4月19日	エンパワメントって？	9	11月29日	仕事について②	14
4月26日	金サポ①	9	12月6日	1日だけの図書館コーナー	11
5月10日	時間の使い方	7	12月13日	金サポ⑥	15
5月24日	精神疾患の基礎知識(Dr)	12	12月20日	健康な体でいるために①	9
6月7日	元気に過ごすための工夫	12	平成26年 1月10日	健康な体でいるために②	13
6月21日	1日だけの図書館コーナー	14	1月17日	先生に聞いてみよう(Dr)	13
6月28日	金サポ②	12	1月24日	からだも心もリフレッシュ ～軽運動～	5

7月12日	認知行動療法について①	12	1月31日	金サポ⑤	13
7月19日	認知行動療法について②	16	2月7日	先生に聞いてみよう(Dr)	16
7月26日	認知行動療法について③	11	2月21日	認知行動療法①	14
8月2日	エゴグラム	14	2月28日	認知行動療法②	14
8月9日	金サポ③	17	3月7日	認知行動療法③	14
8月23日	精神障害を取り巻く現状(Dr)	18	3月14日	後期振り返り	14
9月6日	ストレスとの付き合い方	14			
9月20日	デイケア終了後について考える	16			
9月27日	金サポ④	16			
10月4日	前期振り返り	10			

*金サポ：メンバーがリーダーとなり、その時出されたテーマに沿って話し合いをする

*1日だけの図書館コーナー：自分の紹介したい本を持参し、皆の前でプレゼンをし、意見交換をおこなう

*各回とも前半は講義が中心、後半はシートの記入や、グループワークを行った

②「SST」

言語を媒介としたグループワークプログラムとして、さまざまな場面設定における会話や対応の仕方を身につけることを目的に、毎週火曜日の午後に実施している。平均参加者数は9名であった。

年々参加者は増加傾向にあり、SSTのセッションも自発的に発言できるメンバーが中心となり活発に意見交換がなされた。SSTは悩みを相談できる場として機能するだけでなく、自分の意見を出し認めてもらえることで自己肯定感が高まったり、他参加者の意見を聞くことで悩んでいるのは自分だけではないことが分かったりと、参加者それぞれにとって有益なプログラムとなっている。

5) 家族支援

①家族懇談会

通所者の家族を対象に、奇数月に実施した。

目的：

- ・病気及び障害の知識・理解を深めるための学習の場を提供する。
- ・当所と家族との間で情報交換を行い、今後の関わり方について考えていく。
- ・家族同士の交流を図り、相互支援の場とする。

当所の通所者の多くは家族と同居している。家族支援は、通所者の社会復帰のための基盤固めであり、家族が病気や障害に関して理解を深めることや、家族との情報交換は、通所者の治療にとっても欠かせないものである。また、単身生活を送っている通所者であっても、家族の支持と理解を得ることは、治療をすすめる上で非常に意味がある。

実施状況

表 15 家族懇談会実施状況

開催日	内容	参加人数
平成 25 年 5 月 29 日	① 所長挨拶 ② 職員紹介 ③ デイケアの紹介 ④ 全体での意見交換 ⑤ 個別面談	9
7 月 24 日	① グループ懇談『家族対応で困っていること』 ～ほかの家族の対処法もきいてみよう～ ② 個別面談	7
9 月 25 日	① スピーカーズビューローの体験談 ② 個別面談	7
11 月 27 日	① 就労移行支援事業所見学会	6
平成 26 年 1 月 29 日	① 大類先生による講話 『病気の理解と家族の対処法について』 ② 個別面談	8
3 月 19 日	① グループ懇談『社会資源と自立について』 語ろう ② 個別面談	14

② 懇談会だよりの発行

前回の家族懇談会の実施内容及び参加状況の報告、次回の家族懇談会の案内、通所者の活動報告・紹介などを掲載し、2ヶ月に1回発行した。

6) アフターケア

電話と直接来所での面接という形で相談に応じた。平成 25 年度の相談件数は表 16 の通り。

表 16 相談件数内訳（延べ数）

	生活報告	病気・薬	対人関係	再通所	仕事	その他	計
来 所	14	0	0	0	1	2	17
電 話	28	2	4	0	1	9	44
計	42	2	4	0	2	11	61

(4) リワーク準備コースの指導内容

1) 通所者の特性

ア. 通所者の疾患

通所者の疾患については表 17 の通りである。「リワーク準備コース」の対象者であるうつ病の方が半数を占めている。

表 17 通所者の疾患

疾患名	人数
うつ病	14
双極性感情障害	4
適応障害	2
不安抑うつ状態	1
合計	21

ウ. 年齢

年齢については、図 7 の通りである。平均年齢は 44 歳。最年少は 34 歳、最年長は 57 歳である。40 歳代が一番多くなっている。

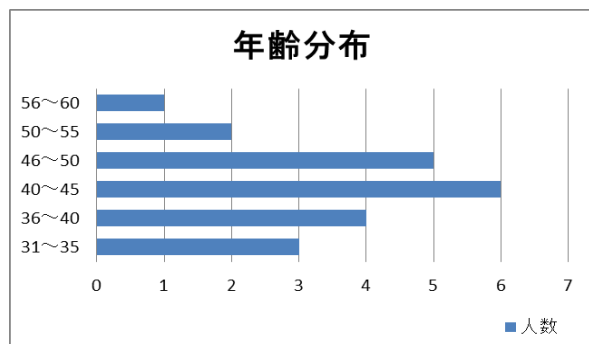


図 7 年齢

イ. 通所者の状況

通所者の状況については表 18 の通りである。「リワーク準備コース」の対象者は休職者としているので休職者が大半を占めているが、一部離職者の受け入れも行なっている。

表 18 通所者状況

職種		人数
休職者	事務	5
	営業・窓口	6
	専門職	1
公務員		6
離職者		3
合計		21

エ. 利用経路

利用経路は表 19 の通りである。医療機関からの紹介が 11 人(52%)と半数を占めている。また他者、他機関からのすすめられての利用は 7 人(33%)となっている。

表 19 利用に至った経路

紹介経路	人数
医療機関	11
区役所	2
自分で	1
家族・知人のすすめ	1
職場のすすめ	1
職業センター・EAP	3
インターネット	1
不明	1
合計	21

才. 学歴

学歴は表 20 の通りである。大卒者が 14 名 (67%) となっている。

表 20 学歴

学歴	人数
高卒	7
大卒	14
合計	21

力. 紹介元

紹介元は表 21 の通りである。民間病院とクリニックからの紹介が主となっている。

表 21 親病院

紹介元	人数
公的病院	1
民間病院	10
クリニック	10
合計	21

キ. 家族状況

家族状況は表 22 の通りである。配偶者や子どもと同居しているケースが多く、単身者は少なくなっている。

表 22 家族状況

同居家族	人数
親	1
配偶者	1
親・配偶者・子	2
配偶者・子	10
単身	7
合計	21

ク. 終了時状況

終了状況は表 23 の通りである。平成 25 年度の在籍者 21 名のうち年度内に終了した者は 13 名 (62%) である。

表 23 終了時状況

終了時状況	人数
フルタイム勤務	2
ならし勤務	3
再就職	0
宮城障害者職業センター	3
就労移行支援事業所	1
休職中	2
求職活動中	1
中断	1
合計	13

2) プログラム

プログラム名	内容
心理教育	うつ病について当センター医師が講義する。テーマは「薬の効果とその副作用」「うつによって起こる考え」「不調になったときのサインと症状」「職場のメンタルヘルスについて」などである。
認知行動療法	職場でのネガティブなエピソードを認知モデルにそってアセスメントし、問題の整理と、改善するための目標を設定する。目標にあわせ「認知再構成法」、「問題解決技法」を実施する。「認知再構成法」では考え方の幅を広げる練習を行い、「問題解決技法」で問題解決法の考え方、手順を取得する。前半は個人作業、後半は集団発表と意見交換を行う。
アサーション	前半はアサーションの説明や具体的なポイントを講義形式で説明する。後半は個人で記入したワークシートをもとに、ロールプレイを行なう。講義内容は①傾聴・メンテナンス、②アサーションについて、③問題解決のためのアサーションとなっている。
エゴグラム	TEGを用いてエゴグラムを実際に行ない、自分の長所や短所について振り返る。
セルフケア	5回1クールとし、講義と質問表の記入、発表を行う。 ①社会保険労務士による講義「会社の休業に関する制度」 ②ライフチャートを通して調子の波を振り返る ③ストレス対処としてのコーピングレパートリーの確認 ④復職（再就職）時、自身が必要とするサポートについて考える ⑤職場でのストレス対策、呼吸法
復職プラン作り	「復職後の再発予防の対策」、「会社の休業に関する制度」、「今後の課題」、「アクションプラン」など、復職までのプランを月ごとに作成する。前半にプラン作成を行い、後半はプラン発表をし意見交換を行っている。
クラブ活動	テニス、手工芸のどちらかを選択し、外部講師の指導により活動する（就労支援・社会参加コースのメンバーと合同）。
ウォーキング	体力づくりを目的に、休憩を入れて約1時間のウォーキングを行なう。
スポーツ	体力づくりを目的に、卓球・ボッチャ・バドミントンなどのスポーツを行なう。
ヨガ	リラクゼーションを目的に講師の指導により初心者向けヨガを行なう（就労支援・社会参加コースのメンバーと合同）。
書道	集中力を養うことを目的に、講師の指導により書道を行なう。
新聞プレゼン	興味がある新聞記事の紹介と自分の感想を発表、意見交換を行なう。復帰後の会議等に備え、まとめた文章を人前でプレゼンする練習を行う。

パソコン	集中力を養うことを目的に、Word・Excelなどの文書の作成を行なう。
グループワーク	関心の高い話題を取り上げ、意見交換を行う。復帰後の会議等に備え、交代で司会進行を担当する。
OB 講話	リワーク準備コース OB による復職体験談を聞くことで、スムーズな復職活動に役立てることを目的に実施。前半は OB の講話、後半は OB と在籍者とのグループワークを行う。
個別面接	月 1 回程度、プログラム終了後に行なう。現在の状態の確認と復職に向けての今後の課題などについてスタッフと話し合う。
ミーティング	「活動記録表」の報告とそのフィードバックを行なう。

3) リワーク準備コース OB 支援

①リワーク準備コース OB 会

終了後の状況把握と、終了者同士の交流の場として「OB 会」を 2 回開催した。会場は利便性の良い街中の市民センターとし、フルタイム勤務者も集まれるよう夜の時間帯とした。当日は通所者にも声をかけ一歩先の先輩方の話が聞ける機会としても活用した。

実施状況

平成 25 年 4 月 26 日 18:30~20:00 12 名参加 (OB 10 名 通所メンバー 2 名)

平成 25 年 10 月 18 日 18:30~20:00 10 名参加 (OB 8 名 通所メンバー 2 名)

②OB 面接

リワーク準備コース終了者に対して職場・事業所等の移行先への定着支援を主として実施し、電話と直接来所での面接という形で相談に応じた。相談実績は電話相談 4 件、来所面接 6 件となっている。

4) リワーク準備コース説明会

2 回開催した (平成 25 年 9 月 27 日、平成 26 年 2 月 25 日)。

開催にあたっては、市の広報誌や医療機関宛に案内を出し周知した。

2 回あわせての申し込み件数は 16 件、当日の参加件数は 10 件であった。参加形態は親や配偶者同伴で来られる人は少なく、本人のみの参加が多くみられた。

利用条件を満たし、本人から希望が出され通所開始に至った方は 2 名となる。また参加者のニーズに合わせ、就労支援・社会参加コースへの紹介が 2 名となっている。

1. 地域生活支援

(1) 精神障害者退院促進支援事業

事業の実施主体を仙台市、実施部署を精神保健福祉総合センターとして、平成 18 年度より事業を開始し、今年度は 3 期計画（3 年間）の 2 年目である。事業開始時から当センターの職員が個別支援を行ってきたが、3 期計画では、平成 24 年 4 月に障害者自立支援法が改正され、障害者相談支援事業所で実施する「地域移行支援」が個別給付化されたことに伴い、これまで退院支援を実施する中培った支援のノウハウを伝えながら障害者相談支援事業所等と連携・協働して個別支援を実施している。またより多くの精神科病院入院者の地域生活への移行と定着の推進に向けて、病院及び関係機関に対しての普及啓発や地域移行に関する連絡調整を実施している。

1) 実施体制

個別支援をする支援職員は 8 名（保健師・精神保健福祉士・臨床心理士）で実施した。

精神保健医療福祉に関する代表者等により構成されている事業運営委員会を 2 回開催し、事業の全体計画、事業効果の検討等を行った（仙台市精神障害者退院促進支援事業運営委員会設置要領に基づく）。また、事業の利用及び変更に関することは当センター所長によって決定された（仙台市精神障害者退院促進地域移行支援事業実施要綱に基づく）。

2) 実施内容

① 個別支援

事業利用者実件数は 18 件で、うち新規は 11 件であった。年度内に事業終了したのは 5 件である。支援の述べ回数は 490 回である。

② 人材育成・普及啓発

- ・退院促進支援/地域移行支援の支援者向けリーフレットを障害者相談支援事業所職員と協働で作成
- ・『仙台市精神障害者退院促進支援事業実践報告集』の増刷と配布
- ・以下の通り説明会・研修会・懇談会を開催

開催日時	内容	対象者・対象機関	備考
平成 25 年 5 月 14 日	事業説明実施	国見台病院	
平成 25 年 9 月 5 日～ 10 月 10 日	リーフレットを用いた 制度説明及び意見交換	市内及び近郊の 精神科病院 10 ヲ所の ケースワーカー等 (計 32 名)	障害者相談支援事 業所職員と協働で 実施
平成 25 年 9 月 5 日	第 1 回 仙台市精神障害者退院 促進地域移行支援事業 研修会	精神科病院・障害者相談支 援事業所・行政機関で地域 移行支援に従事する職員	詳細は「7. 人材 育成 (1) 研修事 業」の項に記載

平成 25 年 10 月 28 日	「病棟における退院支援の役割と意義」についての懇談会	青葉病院（看護師、精神保健福祉士など 22 名）	講師：若林隆志氏（海星病院）
平成 25 年 10 月 29 日	第 2 回 仙台市精神障害者退院促進地域移行支援事業研修会	精神科病院・障害者相談支援事業所・行政機関で地域移行支援に従事する職員	詳細は「7. 人材育成（1）研修事業」の項に記載

③ 関係機関連絡調整

- ・精神障害者のための地域移行推進連絡会を開催（平成 25 年 12 月より毎月開催）
議題：退院先未定ケースの支援機関の整理、退院者の住居確保についての課題確認、地域移行支援の当事者向けリーフレット作成、次年度研修について協議
- ・区保健福祉センター及び障害者相談支援事業所との連絡会議への参加
- ・住居確保に関する関係機関との連絡調整実施

④ 進捗管理・全体把握

- ・仙台市の精神障害者の退院支援に係る動向把握（実態調査）実施
- ・事業利用退院者への追跡調査実施

（2）地域ネットワーク事業

仙台市内の精神保健福祉関係機関のつながりを深め、当事者が地域の社会資源を有効に活用できるような援助とネットワークづくりを進めることを目的に「作業所見学ツアー」を企画実施した。なお、作業所見学ツアーは下記の精神保健福祉関係機関に呼びかけ、実行委員形式で行なっている。

1) 当事者向け作業所見学ツアー

対象：通所施設への通所を考えている精神科に入院・通院中の方

開催日時	内容	定員等（単位：名）
平成 25 年 7 月 5 日 10:30-15:00	<A ものづくり系作業コース> ぱれったけやき木ノ下（B 型）⇒わはわ遠見塚（B 型）⇒さをり工房かおす（B 型）	定員：7／申込：13 当日参加者：5 当日スタッフ：4
平成 25 年 7 月 12 日 10:30-14:30	<B パソコンも学べる就労移行コース> アイエスネットライフ仙台（移行・A 型）⇒スイッチ・センター（移行・自立）⇒ひゅーまにあ仙台（移行）	定員：7／申込：13 当日参加者：8 当日スタッフ：3

※自立：自立訓練（生活訓練） 移行：就労移行支援 A 型：就労継続支援 A 型
B 型：就労継続支援 B 型 地活：障害者小規模地域活動センター

2) 精神保健福祉関係機関職員向け作業所見学ツアー

開催日時	内容	定員等（単位：名）
平成 25 年 10 月 1 日 9:45-14:45	<A コース> すぴなっち（B 型）⇒びすたーり（移行）⇒アエ スエフネットライフ仙台（自立・移行）	定員：8／申込：5 当日参加者：5 当日スタッフ：1
平成 25 年 10 月 4 日 9:30-14:20	<B コース> アビリティーズジャスコ（移行）⇒まある（移行）⇒ア ト・インクルージョン（B 型）	定員：10／申込：9 当日参加者：9 当日スタッフ：3
平成 25 年 10 月 8 日 9:50-14:30	<C コース> サポートセンターひかり（自立）⇒六丁目農園中山店（移 行・A 型）⇒パル三居沢（B 型）	定員：10／申込：9 当日参加者：9 当日スタッフ：5

3) 平成 25 年度作業所見学ツアー実行委員参加機関一覧（順不同）

<ul style="list-style-type: none"> ・ほっとすぺーす ・てれんこ ・ソキウス ・シャロームの会 ・ピアサポートセンターそら ・ひゅーまにあ仙台 ・ひゅーまにあ広瀬川 ・パル三居沢 ・わ・は・わ広瀬 ・ウイングル仙台泉センター ・アビリティーズ・ジャスコ ・ふおれすとあゆみ ・スイッチセンダイ ・仙台メンタルヘルスサービス雨宮 ・ぱれったけやき宮城野 ・もぐもぐ ・シャールおおまち ・工房すびか ・みどり工房永和台 ・アイエスエフネットライフ仙台 ・すまいるハウス ・すまいるライフ南仙台 ・東北大学病院 ・仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
--

4) 次年度へ向けた取り組み

例年、当事者向けツアー2回、支援者向けツアー1回を企画してきたが、今年度は当事者向けツアーを1回にし、次年度「仙台福祉事業所合同説明会」（以下、合同説明会）の準備を行った。合同説明会は仙台市内の通所事業所を参集し、事業所ごとにブースを構えて説明を行なう企画で、今年度は次年度5月の開催に向け、参加事業所の募集、広報活動を中心に行なった。

(3) 保健所等処遇困難事例支援

当センターでは、各区保健所への技術支援の一環として、協働訪問の実施やケア会議への参加等を行っている。平成25年度の実績は以下の通りである（支援事例の実件数）。

	処遇困難事例に関するもの	医療観察法に関するもの
青葉区	7	3
宮城総合支所	2	0
宮城野区	5	0
若林区	4	1
太白区	4	3
秋保総合支所	0	0
泉区	0	1

なお、今後、当センターにおける地域への技術支援の体制を整備するために、アウトリーチ活動についての先進地視察を行った。保健所への技術支援を通じた地域の支援力向上の促進やセンター内外における人材育成等は、今後の課題である。

5. 自殺予防情報センター（こころの絆センター）

（１）自殺予防情報センターの概要

自死対策の総合的な支援体制の強化と対象者に対する支援の充実を図ることを目的に、精神保健福祉総合センター内に自殺予防情報センターを平成 23 年 11 月 1 日に設置した。運用にあたっては保健師、精神保健福祉士、臨床心理士の 3 名が保健・福祉・医療・労働・教育・警察等関係機関と連携を図りながら業務に従事する体制を取っている。自ら命を絶つことを考えている者、未遂者及び自死遺族等の相談に応じるほか、適切な相談窓口につなげるための情報提供や関係者に対する研修等を行っている。

（２）電話相談

希死念慮のある者、企図者、未遂者などの本人およびその家族のほか、自死遺族や震災による遺族等からの相談に応じ、適切な相談機関につなげるための情報提供を行っている。

平成 25 年度の相談延件数は 311 件であり、その内訳については下記の通りであった。

相談の概況は、本人からの相談が約 8 割を占め、また、男女別では女性が 7 割を占めた。匿名での相談も受け付けていることから、相談者の住所や年齢は不明の場合が多い。

相談内容については、相談延件数のうち、こころの健康づくりに関することが全体の約 8 割を占め、その中でも抑うつ的な訴えが最も多かった。問題に関連する相談は全体の 4 割である。精神科既往歴は全体の約 4 割であった。相談者は、慢性的にこころの悩みを抱えているものが多く、対応としても相談者の不安感を傾聴するという対応が多くを占めている状況である。

1) 相談者性別

性別	H25									H26			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
男	13	2	5	10	4	9	7	4	2	6	2	7	71
女	16	21	28	26	19	21	22	20	18	17	11	8	227
不明	0	0	2	3	0	2	0	1	1	0	0	4	13
合計	29	23	35	39	23	32	29	25	21	23	13	19	311

2) 相談者住所

住所	人数
青葉区	13
宮城野区	9
若林区	7
太白区	6
泉区	4
市内不明	9
不明	263
合計	311

3) 相談者年代

年代	人数
20歳未満	2
21～30歳	15
31～40歳	13
41～50歳	20
51～60歳	12
61～70歳	13
71～80歳	2
81歳以上	2
不明	232
合計	311

4) 相談者続柄

続柄	人数
本人	243
親	11
舅姑	1
兄弟・姉妹	4
配偶者	3
その他の親族	5
友人・知人	5
子供	7
その他	32
合計	311

5) 相談内容の詳細

相談内容	件数
老人精神保健	0
アルコール問題	0
思春期 (20歳未満)	5
精神障害ではないかとの訴え	(0)
精神障害の治療の問題	(1)
不登校	(2)
行動の異常	(1)
抑うつ的な訴え	(1)
こころの健康づくり (20歳以上)	259
被害妄想的な訴え	(3)
精神障害ではないかとの訴え	(0)
精神障害の治療の問題	(3)
対人関係についての問題	(16)
家庭内暴力	(2)
性についての悩み	(1)
仕事・職場についての悩み	(19)
出産・育児に関する悩み	(4)
夫婦関係等家庭内の悩み	(35)
近隣とのトラブルについての悩み	(2)
心氣的・身体的訴え	(19)
抑うつ的な訴え	(108)
無気力・ひきこもり	(1)
サラ金・ギャンブル等の問題	(3)
その他	(43)
うつ・うつ状態	2
その他	45
日常生活報告	(2)
その他	(43)
合計	311

6) 自殺問題関連の該当状況

当該の有無	件数
該当あり	117
希死念慮	(89)
企図	(11)
未遂	(15)
自死遺族	(2)
該当なし	194
合計	311

7) 精神科既往歴の状況

精神科既往歴	件数
あり (内訳は複数該当あり)	131
うつ病	(34)
抑うつ状態	(7)
統合失調症	(8)
躁うつ病	(9)
PTSD	(0)
強迫性障害	(1)
適応障害	(1)
パニック障害	(2)
パーソナリティ障害	(5)
精神遅滞	(1)
対人恐怖症	(2)
不明	(75)
なし	43
不明	137
合計	311

8) 判断と対応

対 応 判 断	指導・助言	傾聴	来所相談へ	電話相談紹介	医療機関紹介	関係機関紹介	警察を紹介	関係機関へ連絡	その他	合計
危険が切迫	0	2	3	0	0	0	1	0	0	6
切迫していないが要支援	27	53	3	10	6	5	0	3	13	120
自死関連問題以外	29	55	2	56	5	6	0	1	31	185
合計	56	110	8	66	11	11	1	4	44	311

(3) 面接相談

「震災後の生活困りごとと、こころの健康相談」（定例相談およびキャンペーン相談会）の開催

自死の要因のひとつである経済的な問題を抱える人の中には、精神的な悩みを抱いている人も存在するため、経済問題に関する問題と併せてこころの健康相談を実施している。

仙台市民および仙台市内に通勤・通学している、生活困窮者等の社会的支援が必要とされる方を対象に、弁護士・司法書士による法律的な相談とあわせて、保健師・心理士・精神保健福祉士によるこころの健康相談会を開催した。

定例相談	毎月第2火曜日 13時-16時 場所：司法書士会館	実施回数 11回 相談件数 17件
キャンペーン相談会	平成25年9月3日、17日 (自殺予防週間に合わせた開催) 場所：ハローワーク仙台5階セミナー室	実施回数 2回 相談件数 18件 (うち心の相談3件)
	平成26年3月4日、11日 (自殺対策強化月間に合わせた開催) 場所：情報産業プラザ・メディアテーク	実施回数 2回 相談件数 38件 (うち心の相談15件)

(4) 人材育成

地域において自死対策にかかわる専門職を始め、地域の中でハイリスク者とかかわることの多い方や、職域などを対象に研修を実施した。

1) 市職員及び自殺対策関係職員向け（自殺対策ゲートキーパー養成講座）

開催日	内容及び講師	参加人数
平成25年 7月12日	「職員一人ひとりができること ～病気の理解とメンタルヘルス対策について～」 仙台市精神保健福祉総合センター 大類主幹 宮城県司法書士会副会長 草野哲也 氏	124

2) 自殺対策関係職員向け（地域自殺対策研修講座）

開催日	内容及び講師	参加人数
平成26年 2月20日	「被災者支援と自殺対策 ～復興公営住宅への移行期における心のケアを考える～」 兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授 岩井圭司 氏 「復興公営住宅での支援体制について」視察報告 宮城野区保健福祉センター障害高齢課職員 仙台市精神保健福祉総合センター職員	59

3) 司法書士向け

開催日	内容及び講師	参加人数
平成 26 年 11 月 2 日	「支援者のメンタルヘルス対策 ～多彩な問題に関わる支援者のメンタルヘルスを保つために ～」 仙台市精神保健福祉総合センター 大類主幹 スピーカーズビューロー登録者	89

4) 地域におけるゲートキーパー研修への講師派遣

対象者(依頼主)	派遣回数	参加人数
みやぎ生協協同組合貸付事業担当者	1	6
理美容関係 (理容生活衛生同業組合青葉支部・太白支部・泉支部)	4	392
スクールカウンセラー・養護教諭・指導主事教諭	1	171

(5) 普及・啓発

一般市民・関係機関等を対象に、自死対策の意識の向上や、予防・心の健康づくりの知識の普及・啓発を図った。

- ・ 仙台市の 20 歳代の自殺死亡率が全国と比して高い傾向にある事から、大学生をメンバーとし“若年層を対象とした普及啓発活動検討委員会”を開催した。大学生の視点を盛り込んだ啓発媒体（クリアファイル・リーフレット）を作成、メンバー自身が他の学生にストレス反応やセルフケア等の説明を行う“ピア・エデュケーション”手法を用いた啓発を 143 名に実施した。
- ・ 自死予防や心の健康づくりの知識普及・啓発を目的とした事業の際に、こころの健康づくりキャラクター「ここまる」を使用した。
- ・ 自殺予防週間のポスターを作成し、関係機関に送付した。
- ・ 自殺予防情報センターリーフレットを関係機関に送付した。
- ・ ホームページを利用した自死予防に関する普及啓発を実施した。
- ・ 自殺対策強化月間（3 月）に、街頭キャンペーンを実施した。
- ・ 復興定期便等による普及啓発を実施した。



(6) 遺族支援

自死遺族からの相談を受け、必要に応じ自死遺族グループ等を紹介した。

(7) 実態把握

厚生労働省の保健統計や警察庁によるデータを用いて本市の自死の実態に関する分析を行い、地域保健福祉活動に活用するための情報発信を行った。

(8) 関係機関との連携強化

庁内外の関係機関・関係団体と連携・情報共有を図り、本市としての有効な取り組みの検討や総合的な対策を推進するための会議に、事務局として参画した。

(障害者支援課、健康増進課、当センターの2課1公所での事務局体制)

- ・ 仙台市自殺対策連絡協議会：平成 25 年 9 月 12 日開催
- ・ 自殺総合対策庁内連絡会議：平成 25 年 8 月 1 日開催

6. 精神医療審査会・精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療の判定

(1) 精神医療審査会の審査状況

平成 25 年度は年間 35 回の実施、審査会 1 回あたりの平均審査件数は 68.8 件となった。退院等請求件数は 10 件で、うち 3 件は請求取り下げ、審査に至った 7 件中 1 件は請求却下、6 件は入院継続が必要との結果になった。

退院請求及び処遇改善請求等の電話受理件数は 359 件で、うち退院に関するものは 91 件であった。その他、訴えの内容は病院や家族との関係に関するものなど、多彩であった。

表 1 入退院等審査件数の推移（平成 20 年度～平成 25 年度）

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
医療保護入院届	1,157	1,357	1,352	1,455	1,394	1,415
医療保護入院定期病状報告	807	862	930	992	1,015	993
措置入院定期病状報告	5	3	0	3	2	1
退院等の請求	5	7	12	4	8	7

表 2 保留・指導件数推移（平成 20 年度～平成 25 年度）

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
保 留	94	108	159	127	209	242
指 導	56	34	45	32	33	27
不 承 認	0	0	0	0	0	0

表 3 平成 25 年度医療保護入院届等審査件数（病院別）

病院名 \ 項目	医療保護入院届	医療保護入院 定期病状報告	措置入院 定期病状報告	退院等 の請求
東北大学病院	101	1		1
国見台病院	157	145		1
東北会病院	76	19		2
西仙台病院	65	169		
台原高柳病院	56	43		
杜のホスピタル・あおば	87	24		
せんだんホスピタル	163	12		1
仙台医療センター	70	2		
青葉病院	118	87	2	1
安田病院	96	62		
自衛隊仙台病院	2	0		
東北薬科大学病院	163	2		
仙台市立病院	2	0		

病院名（続）	項目 医療保護入院届	医療保護入院 定期病状報告	措置入院 定期病状報告	退院等 の請求
春日療養園	15	55		1
仙台富沢病院	148	192		
杜都千愛病院	22	13		
エバーグリーン病院	74	167		
県立精神医療センター				
合 計（前頁と合わせ）	1,415	993	2	7

表 4 平成 25 年度 保留・指導・不承認の状況（届出別）

	医療保護入院届	医療保護入院 定期病状報告	措置入院 定期病状報告	計
保 留	175	67	0	242
指 導	18	9	0	27

（２）精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院）の判定状況

1) 精神障害者保健福祉手帳

表 5 平成 25 年度申請件数

区分	件数	内訳					更新者数
		1 級	2 級	3 級	非該当	保留	
診断書	2,489	411	1,282	737	11	48	1,661
年金照会	1,463	288	1,019	144	12	0	1,340

表 6 平成 25 年度手帳保持者数

区分	青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区	計
1 級	506	303	191	374	278	1,652
2 級	1,368	648	515	1167	728	4,426
3 級	558	335	214	403	301	1,811
計	2,432	1,286	920	1,944	1,307	7,889

（25 年度末現在）

表 7 過年度の手帳保持者数

区分	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
1 級	1,361	1,462	1,468	1,486	1,561
2 級	3,000	3,139	3,385	3,664	4,079
3 級	1,097	1,191	1,302	1,457	1,635
計	5,458	5,792	6,155	6,607	7,275

（各年度末現在）

2) 自立支援医療（精神通院）

表 8 平成 25 年度申請件数

件数	内訳			更新者数
	承認	非該当	保留	
14,198	14,194	3	1	12,159

表 9 平成 25 年度受給者証交付者数

青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区	計
4,207	2,750	1,823	3,278	2,695	14,753

(平成 25 年度末現在)

表 10 過年度の受給者証交付者数

20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
9,820	10,627	11,382	13,006	14,190

(各年度末現在)

7. 人材育成

(1) 研修事業

1) 精神保健福祉基礎講座（初任者研修）

目的：精神保健福祉業務に携わる職員が、地域精神保健福祉活動の実践に関する基礎的かつ全般的な知識を学び、資質の向上を図る。

対象：精神保健福祉業務に携わる市及び関連機関の職員（概ね経験3年未満）

会場：精神保健福祉総合センター会議室及び集団療法室

内容：以下の通り

開催日時	内容及び講師	参加人数
平成 25 年 7 月 17 日 9:20-16:50	「精神障害について～統合失調症と気分障害を中心に」 精神保健福祉総合センター主幹（精神科医） 原田修一郎 同 大類真嗣 「当事者の体験談」 スピーカーズビューロー登録者の方 2 名 「精神保健福祉制度と仙台市の施策」 障害者支援課障害保健係 主幹兼係長 早坂健一 「面接時の留意点」 東北福祉大学准教授 志村祐子 氏	95

2) 精神保健福祉実践講座

目的：精神保健福祉業務に携わる職員を対象に地域精神保健福祉活動の実践に関するより専門的な諸知識を提供する

対象：精神保健福祉業務に携わる市及び関連機関の職員

会場：フォレスト仙台

内容：以下の通り

開催日時	内容及び講師	参加人数
平成 26 年 2 月 19 日 14:00-17:00	「エンパワメントの視点から見た精神障害者の就労支援」 東京国際大学人間社会学部教授 齋藤 敏靖 氏	40

近年、精神障害者の就労には注目が集まっている。しかし、精神障害者の雇用率は他障害に比べてまだ低く、離職者も少なくないのが現状である。今回の講座は、更なる雇用促進と職場定着をすすめていくために重要となってくるエンパワメントやストレスに焦点を当てた就労支援の実践的な話しを聞く機会となった。話しの内容が具体的な事例を交えたものであったため「理解しやすかった」「イメージが持ちやすく実際の業務にも生かせそう」との意見が多く好評であった。

3) 思春期問題研修講座

目的：思春期の事例に関わる教職員や行政職員らに対し、思春期精神保健に関する基本的な知識を提供する。

対象：思春期の事例に係わる教職員や行政職員

会場：仙台市障害者総合支援センター研修室 1

内容：以下の通り

開催日時	内容及び講師	参加人数
平成 25 年 11 月 10 日 13:00-16:40	講話「子どもの感情を育てる～怒りや不安をコントロールするのが難しい子どもたちの理解と援助」 講師 東京学芸大学大学院教育心理学講座教授 大河原 美以 氏 グループワーク	40

精神疾患や自殺などの問題を予防し、生涯にわたって精神的な健康を維持するためには、思春期青年期の成長が大変重要であると考えられる。子どもたちが自分のストレスに気づき、その対処法を学んだり、感情をコントロールしながらお互いの気持ちを伝えるための適切な表現方法を身につけたりすることができるような援助について学ぶ機会を設けることが必要と考えられた。こうした観点から、“子どもと家族の心理療法”を専門とする研究者・実践家である大河原氏を講師に迎え、具体的事例等を交えてお話いただき、グループワークも含めて参加者の評価や満足度は高かった。

4) アルコール問題研修講座

目的：行政や関係機関の職員に対し、アルコール依存症や関連する諸問題についての知識や基本的な対応方法を学びスキルアップを図る場を提供する。

対象：アルコール関連の事例に係わる関係機関の職員や行政職員

会場：仙台市精神保健福祉総合センター 2 階研修室

内容：以下の通り

開催日時	内容及び講師	参加人数
平成 25 年 10 月 9 日 9:30-16:30	講話 「アディクションについて～アルコール関連問題を中心に～」 東北会病院 精神科医 奥平富貴子氏 「回復とは～当事者からのメッセージ～」 東北会病院 精神保健福祉士 鈴木敏弘氏 当事者 2 名 「AUDIT を用いた簡易介入の方法」 東北会病院 精神保健福祉士 齋藤健介氏 看護師 加藤裕美氏 「東北会病院のアルコール医療について」 東北会病院 看護師 佐藤信一氏	60

近年のアルコール対策は、いかに問題飲酒の方を早期に発見し介入するかという視点とともに、いかにして問題を予防し、より健康的な飲酒方法へと導けるか、という視点

が重視されるようになっており、健康群～問題飲酒群まで一つの連なりとして捉えられるようになってきている。本年度は行政職、特に、家庭健康課や保護課の職員の参加者が多く、多量飲酒者も含めた幅広い「飲酒問題への対応」に関心を持つ職員の参加があったと推測される。研修内容としては、アディクションの全体・背景を理解した上で、その理解を体験として深め、さらに具体的な対応について学ぶ幅広いものであり、アルコール対応について詳しくない参加者にも、そしてアルコールの知識はあっても最近の動向については十分知らない参加者にとっても、満足度の高い内容であった。

5) 精神保健福祉担当実務研修

目的：地域精神保健福祉行政に携わるために必要な実践的・実務的な知識の提供

対象：各区精神保健福祉業務担当者

会場：庄建上杉ビル 3 階会議室

内容：以下の通り

開催日時	内容及び講師	参加人数
平成 25 年 6 月 11 日 9:30-14:45	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者保健福祉手帳・精神通院医療の事務処理 精神保健福祉総合センター 主任 下條秀幸 ・医療保護入院届等、精神医療審査会関係業務の事務処理 精神保健福祉総合センター 主任 佐藤明子 ・措置入院にかかる緊急対応業務 障害者支援課障害保健係 心理判定員 志野雄平 ・移送制度実施にあたっての実務の流れと対応のポイント 宮城総合支所保健福祉課 精神保健福祉相談員 高橋智幸 	12

本研修は、初めて精神保健福祉行政の実務に関わる職員が業務の意義や目的、全体の流れを理解するために役立つものと考えられる。また、業務上の取り扱いを統一し、市民サービスを一定レベルに保つためにも定期的な実施が必要と考えられる。

6) 仙台市精神障害者退院促進地域移行支援事業研修会

目的：精神科病院・地域支援機関・行政との協働による地域移行支援

対象：仙台市内及び近郊の精神科病院職員、障害者相談支援事業所職員（精神・身体・知的）、区障害高齢課（精神保健福祉担当）・総合支所保健福祉課職員

会場：仙台市障害者総合支援センター ウェルポートせんだい 2 階研修室 1

内容：以下のとおり 2 回開催した。

開催日時	内容及び講師	参加人数
平成 25 年 9 月 5 日 13:30-17:00	<p>話題提供『精神科病院と地域支援機関との協働によるニューロングステイ（新規入院者の長期化）防止へのアプローチ』 話題提供者 春日療養園 精神保健福祉士 五十嵐真裕美 氏 相談支援事業所てれんこ 精神保健福祉士 木村世理奈 氏 太白区役所障害高齢課 精神保健福祉相談員 松田志保</p>	31

	はあとぼーと仙台 保健師 一條梢 グループワーク『事業報告事例集から学ぶ新たな長期入院者 発生予防に向けて取り組めること』	
平成 25 年 10 月 29 日 9:30～12:00	講話『地域移行をどうすすめるか ～病院・地域・行政が協働で行う支援システムづくり～』 相談支援事業所ふあっと 精神科認定看護師 東 美奈子氏 医療法人同仁会 海星病院 地域連携推進員 若林 隆志氏 意見交換	31

今年度は地域移行支援を進めていく上で、病院と地域・行政がどのように協働していくかというテーマで2回の研修を実施した。地域移行支援で関わるケースは一つの機関だけではなかなか退院に結びつかない現状であり、退院後の生活支援を円滑に進め、ニューロングステイを生まないために他機関との連携が重要であることを学んだ。

(2) ケース会議

相談業務におけるケースへの対応を検討し、日常の業務に活かすことを目的として、講師として東北福祉大学大学院教授の宇田川一夫氏を迎え、年間10回にわたりケース会議を開催し、職員の力量向上に努めた。

開催日	検討分類
平成 25 年 4 月 19 日	対人関係 (女性)
5 月 17 日	家族関係 (女性)
6 月 21 日	対人関係 (男性)
7 月 19 日	対人関係 (男性)
9 月 20 日	家族関係 (男性)
10 月 18 日	対人緊張 (女性)
11 月 15 日	対人関係 (男性)
12 月 20 日	不定愁訴 (女性)
平成 26 年 1 月 17 日	家族関係 (女性)
3 月 7 日	家族関係 (女性)

* 検討分類欄の(カッコ)内はケース性別

(3) デイケア通所者についてのケース検討会

1) 目標

- ① ケースの理解を深めデイケア指導に活かす。
- ② 関係機関と情報交換を行い職員の資質の向上を図る。

2) 実施状況

各回を担当制とし、年5～6回の日程の中で担当職員を決めて行った。緊急性の高いケー

スがいる場合は適宜担当職員を変更して行った。各職員の担当ケースについて取り上げ、ケース検討会という時間を使ってじっくり検討することで、日頃のスタッフミーティングだけでは見えないケースの様子を確認し職員間で共有することができた。今年度は関係機関の参加はなかったが、検討会実施に向けて事前の情報交換や方向性の確認などを行っている。

開催日	内容
平成 25 年 6 月 26 日	慢性的な注察感に悩み集団への参加が難しいケース
8 月 28 日	本人の希望に寄り添う支援をするには
10 月 30 日	就労支援・社会参加コース利用中で休職中のメンバーへの対応について
12 月 25 日	今後のステップアップに向けた支援がなかなか進まないケースについて
平成 26 年 2 月 26 日	リワーク準備コース新プログラム紹介「アサーション」

8. 技術援助

(1) 関係機関に対する技術援助

	保健所	学校関係	障害者支援施設	福祉事務所	病院関係	その他	計
社会復帰（件）	36		173	1	432	40	682
アルコール関係（件）	7						0
思春期（件）							0
心の健康づくり（件）							0
学生教育実習等（件）		105					105
困難ケースの指導等（件）							0
精神科病院実地指導（件）					17		17
その他（件）							0
計（件）	36	105	173	1	449	40	804

(2) 地域精神保健福祉活動連絡会議

各区保健福祉センターが運用の主体となる精神保健福祉法第34条「移送制度」の適正運用に資すること及び地域の処遇困難事例への対応策を検討すること、地域精神保健福祉に関する課題や話題を共有すること等を目的として、当センターが主催して開催している。市役所障害企画課生活支援係、市内5区保健福祉センター障害高齢課・2総合支所保健福祉課の精神保健福祉担当者が参加する。事例によって生活保護担当、児童相談所担当などの関係機関の職員も参加し、ケースの処遇を考える機会となっている。実施状況は下表の通りである。

回	開催日	内容
1	平成25年 5月14日	1. 担当者顔合わせ 2. 本会議の持ち方について 3. 事例検討「入院中の60代女性への支援について」（宮城総合支所） 4. その他（はあとぼーと） ・アルコール家族ミーティングについて ・退院促進支援事業について ・研修案内
2	6月11日	1. 事例検討 「措置入院を繰り返し市長同意にて医療保護入院中の処遇困難事例への支援状況について」（はあとぼーと） 2. 自殺予防情報センターについて（はあとぼーと）
3	7月9日	医療観察法についての勉強会 講師：仙台保護観察所 所長、社会復帰調整官2名
4	9月10日	1. 事例検討 移送を検討しているケースについて（宮城野区・若林区 各1事例） 2. その他

		<ul style="list-style-type: none"> ・退院促進地域移行支援に関する調査の結果報告（はあとぽーと） ・研修案内（はあとぽーと）
5	10月8日	障害者支援課主催「第1回精神緊急対応等担当者会議」における検討内容について
6	11月12日	<p>事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移送を検討しているケースについて（宮城野区） ・移送実施予定ケースへの対応について（若林区） ・住所不定のまま退院し、地域でのトラブルが予想されるケース（はあとぽーと）
7	12月10日	<p>事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移送実施ケースの報告（若林区） ・薬物使用の経過のあるケースへの対応について（宮城野区） ・本人への接触がしづらいが行動化が心配されるケース（太白区）
8	平成26年 1月14日	<p>事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の支援体制について整理が必要な措置入院中のケース（青葉区・はあとぽーと） ・11月検討ケースの経過報告（はあとぽーと）
9	2月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 改正精神保健福祉法について（はあとぽーと） 2. 地域移行推進連絡会の報告（はあとぽーと）
10	3月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例検討 脱法ドラッグが関与した2事例（若林区） <ul style="list-style-type: none"> ・警察官通報になったケース ・「問題が起きた時にしか来所しない」本人と家族で、継続相談が難しいケース 2. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・改正精神保健福祉法追加情報（はあとぽーと） ・アルコール家族ミーティングについて（はあとぽーと）

9. 普及啓発

(1) こころの健康フェスティバル(第17回「こころの健康フェスティバル2013」)

目的：広く一般市民がこころの健康に関心をもち、精神保健に関する知識や情報を学ぶことを通して、精神障害のある方々への理解を深め、ともに生活できる地域づくりを推進することを目的に、平成9年度から開催している。

開催日時	内容	参加人数
平成25年 11月9日 13:20-16:10	ミニコンサートと講演会 (会場：仙台市福祉プラザふれあいホール) 第一部 NHK 仙台少年少女合唱隊ミニコンサート 第二部 講演会「サザエさん一家は幸福みつけの達人ぞろい」 講師：増岡弘 氏（声優）	80
平成25年 11月5日 -11月9日	こころの健康パネル展 (会場：仙台市福祉プラザ2階展示ホール) 精神疾患やアルコール依存症、ひきこもりなどに関するパネルの展示	-
平成25年 11月8日 10:00-15:30	デイケア祭 (会場：精神保健福祉総合センター) デイケア通所者による発表会、作品展示、バザーなど	-

(2) 高校生に対するアルコール講演会・薬物講演会

1) アルコール問題に関する講演会

平成11年度に仙台市アルコール問題対策連絡会議にて、若年層へのアルコール教育の必要性が提言され、これを受けて平成12年度より高校に出向いての講演会を行っている。内容は、当センター職員によるアルコールに関する基本的知識の講話と、AAメンバーのアルコール依存症体験者からのメッセージで実施した。

実施校（対象学年・生徒数）、開催年月日

仙台工業高等学校（2年生・198名） 平成25年7月2日 14:20-15:10

仙台商業高等学校（3年生・316名） 平成25年11月6日 14:10-15:10

2) 薬物問題に関する講演会

薬物に関する正しい知識と理解を深めてもらい、薬物に関連する身体的・心理的な問題に対する予防を図ることを目的に、平成14年度から高校に出向いての講演会を実施している。平成19年度からは、仙台ダルクによる薬物依存症体験者からのメッセージに加え、当センター職員による講話を含めた内容で実施している。

実施校（対象学年・生徒数）、開催年月日

仙台工業高等学校（1年生・200名） 平成25年9月17日 14:20-15:10

(3) はあとぼーと通信

精神保健福祉に関する知識の普及・啓発を図るため、当センターが定期的に発行している機関紙である。東日本大震災以降は震災後こころのケアに関する内容を掲載し、被災世帯にも配布している。平成 25 年度は第 46 号、第 47 号の計 2 回発行し、当センターのホームページにも掲載した。

号数	主な内容
第 46 号	特集「こころの絆センターのごあんない」コラム「震災後こころのケア」シリーズ「セルフケアの豆知識①」「こころの病気の基礎知識①」
第 47 号	特集「リワーク準備コースへようこそ」コラム「震災後こころのケア」シリーズ「セルフケアの豆知識②」「こころの病気の基礎知識②」

10. 組織育成

(1) 仙台市精神保健福祉関係機関業務連絡会議

この会議は、関係機関との情報交換と研修の意味合いをもっており、当センター及び本市の精神保健福祉に関して全般的に扱う会議として年1回実施するものである。

1) 日時：平成25年12月11日 13:30-16:30

2) 場所：当センター研修室

3) 参集機関・参加者：

仙台市内の精神保健福祉関係機関（障害者相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、障害者小規模地域活動センター、宿泊型自立訓練事業所、共同生活援助及び共同生活介護事業所、医療機関、就労支援機関、市役所内関係部署）。今回は69名の参加があった。

4) 内容：

① 当センター事業報告

② 研究協議会「精神障害者の就労支援について ～一般就労への移行と定着を促進するために必要なこととは～」

～話題提供～

ハローワーク仙台窓口業務の取り組みについて

ハローワーク仙台 松木長男氏

仙台市障害者就労支援センターの取り組みについて

仙台市障害者就労支援センター 遠藤真理氏

就労移行支援事業所「スイッチ・センダイ」の取り組みについて

スイッチ・センダイ 小野彩香氏

③ グループワーク

④ 全体会

5) 当日の状況から

参加施設の広がりや参加人数から、精神障害者の就労支援に対する関心の高さが伺われた会議だった。

グループワークでは、話題提供を受けて「就労支援をする上での課題」と「移行と定着のために必要なこと」について活発な意見交換や情報交換が行われた。全体会では、グループごとの報告を受け、雇用者側、本人、支援者側それぞれの立場から、課題と移行・定着に必要なことを整理した。

内容についてのアンケートでは96%の方がよかったと回答していた。

(2) アルコール問題対策連絡会議

アルコール関連諸問題について関係機関の連携を図ることにより、アルコール関連問題の予防と早期発見、アルコール依存症者の社会復帰を目指すことを目的として、アルコール問題対策連絡会議を実施した。

平成25年度は、庄建上杉ビル会議室を会場に、機関諸機関（市医師会、アルコール相談指導医、各区障害高齢課等）や当事者・家族の団体（断酒会、AA等）など、計18名が参

加した。

開催日時	内容
平成 26 年 3 月 4 日 15:00- 16:30	・テーマ『AUDIT 普及の取組みの効果と課題』 話題提供者：宮城野区障害高齢課 精神保健福祉相談員 下村瑞希 若林区障害高齢課 精神保健福祉相談員 佐伯涼香 東北会病院リカバリー支援部地域支援課 ・意見交換

1 1. 東日本大震災後のこころのケア

当センターは、被災者支援の中でも、震災後の心のケアについて中長期的展望に立って事業を俯瞰し展開するため、平成 25 年 6 月に「仙台市震災後心のケア行動指針」を策定した。指針においては、時期を第Ⅰ期～第Ⅲ期にわけ、それぞれの時期の復興に向けた動きに伴った生活上の問題点を予想した上で、1) 相談支援、2) 普及啓発、3) 人材育成、4) マネジメント、5) 連絡調整といった事業を展開している。

平成 25 年度は、第Ⅰ期（平成 24 年度～平成 26 年度）（応急仮設住宅期～復興公営住宅の移行期）にあたり、新たな生活環境への不適應やコミュニティの変化（解体→再構築）の中での孤立化、また生活再建レベルに格差が出ることによって生じる不安感等が問題として予測され、精神保健福祉総合センターにおいても、区保健福祉センター等と協働で下記のとおり被災者支援を実施した。

（1）相談支援

精神科医・保健師・看護師・心理士・精神保健福祉士を、各区に定期または随時で派遣している。

主に区保健福祉センターの震災ストレス相談担当者のコーディネートにより、心のケアが必要と見られる被災者への訪問、区役所での面接相談等の個別支援を行った。それらの対象者については、定期的なケースレビューや支援者の情報交換会等で支援方針を共有している。

1) 職員派遣状況（延べ）

月	職種			
	精神科医師	心理士	保健師	精神保健福祉士
平成 25 年 4 月	4	8	1	0
5 月	6	22	3	0
6 月	5	23	6	1
7 月	7	21	11	3
8 月	7	20	4	2
9 月	7	23	4	4
10 月	9	23	9	3
11 月	9	29	13	3
12 月	9	27	11	3
平成 26 年 1 月	7	19	8	2
2 月	10	30	11	3
3 月	11	29	14	3
計	91	274	95	27

2) 各区等派遣状況

各区や子供未来局等が実施する被災者の心のケアに関連した事業に職員を派遣し、各区・各支所・関係機関等のスタッフと共に協働支援の実施や、スタッフへの技術支援等を実施している。

(平成 25 年度延べ派遣数)

※複数体制で派遣した際には延べ数 2 で計上したため、延べ対象者の数と一致しない。

	青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区	宮城総合支所
派遣回数	18	103	82	35	6	7
訪問(件)	実 1/延 10	実 132/延 255	実 68/延 128	実 29/延 33	実 1/延 2	—
レビュー(回)	8	12	12	—	3	7
事例検討(回)	—	—	—	8	—	—
健康相談会 (回)	—	1	3	2	1	—
アルコール検討会 (回)	—	—	—	4	—	—

各区・支所において児童精神科医や臨床心理士が月 1 回、子どもや保護者の相談に対応(子どものこころの相談室)

子どものこころのケア従事者研修講師

子どものこころのケア検討委員会、担当者会議への出席

「震災後の子どものこころの相談マニュアル」改訂についての助言

子育て支援課への技術援助 25 件

3) 延べ対象者数と相談内訳

平成 25 年度の相談支援対象者は、延べ約 275 名であった。

相談内容はストレス関連が最も多く、ネットワーク関連、社会生活関連が続く。これは昨年度と同様の傾向であるが、年度を追うごとにネットワーク関連、社会生活関連の内訳の割合が増加しており、「震災そのもののストレスへの支援」から、「震災に起因した状況に応じた支援」へ、支援の目的がスライドしつつあるといえる。

また、延べ対象者数は減少傾向にあるが、派遣先は各区・支所に広がりつつあり、職員派遣数は増加しており、支援の必要性が高い被災者へのフォローは行き届いている印象である。

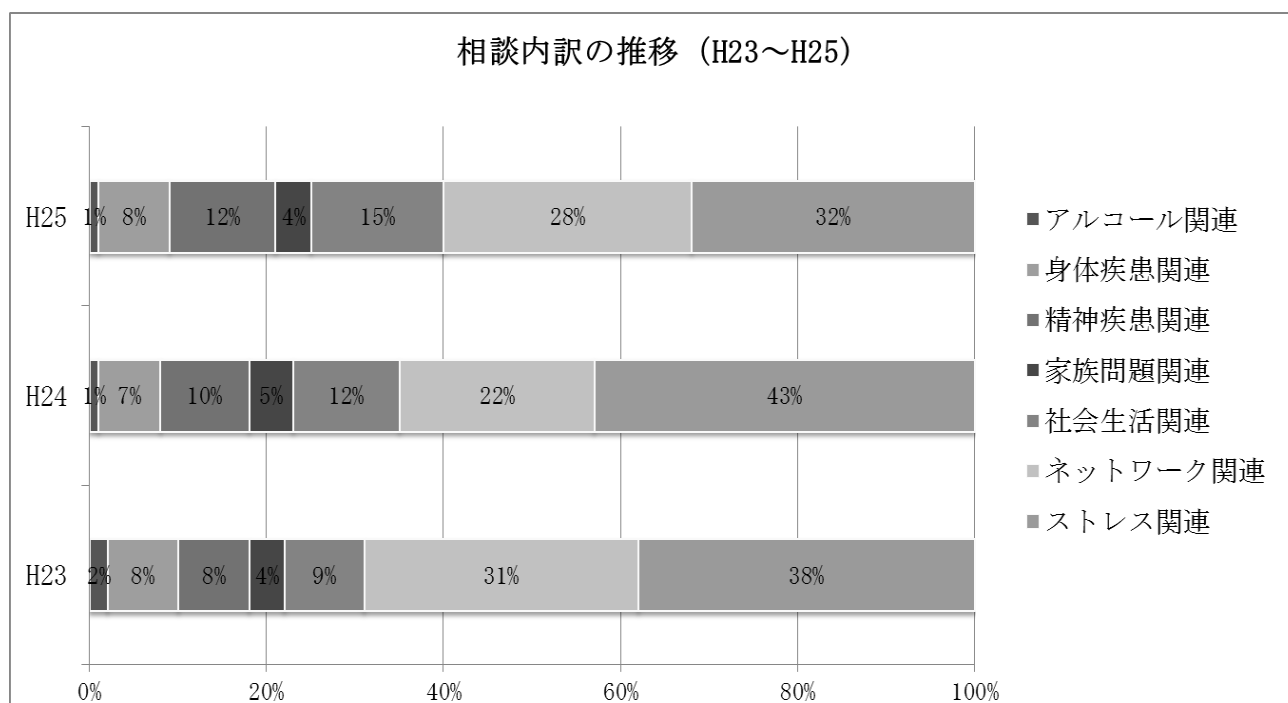
なお、各相談項目の内容は以下の通りである。

項目	内容
アルコール関連	(飲酒により) 騒ぐ、暴言、暴行
身体疾患関連	悪性新生物、循環器系、消化器系、神経系、目・付属器等の身体疾患
精神疾患関連	PTSD、アルコール、気分障害、統合失調症、認知症、その他
家庭関連	DV、家庭不和、虐待、不適切介護
社会生活関連	育児不安、稼働不安定、居住地、失業、借入金、収入減少、不登校・馴染めない
ネットワーク関連	近隣苦情、孤立、世帯員数の変化、他市転入、単身、民間賃貸
ストレス関連	イライラ、焦燥、悪夢、易疲労性、楽しめない、災害考えない、災害を思い出し動揺、災害を思い出す、災害逃避、食欲変化、神経過敏、睡眠障害、退行、不安、憂うつ

震災ストレス相談内訳（相談延べ数）

相談内容	H 25	H 24	H 23
アルコール関連	3	4	26
身体疾患関連	22	29	97
精神疾患関連	33	43	90
家庭問題関連	12	20	50
社会生活関連	41	49	107
ネットワーク関連	76	90	371
ストレス関連	88	179	453
計	275	414	1,194

相談内訳の推移（H23～H25）



（２）普及啓発

- ・ はあとぽーと通信（No.46，9/15 発行）にて震災後の心のケアに関する記事を掲載
- ・ ホームページに災害時メンタルヘルスに関する情報を掲載
- ・ 各種講演会・研修会等において，パンフレットやリーフレットの配布
- ・ 心の健康フェスティバルや若林区健康まつりでのパネル展示の実施

(3) 人材育成

1) 支援者向け研修

開催月	内容及び講師
平成 25 年 7 月	「震災後の心のケア検討会議」 講師：兵庫県精神保健福祉総合センター 藤田昌子 氏 対象：仙台市精神保健福祉総合センター職員
12 月	災害時メンタルヘルス研修会 「震災後の活動から見てきた子どもの心のケア」 講師：いわてこどもケアセンター副センター長 八木淳子 氏 対象：地域において被災者支援にかかわる者
平成 26 年 2 月	(再掲)地域自殺対策研修 「被災者支援と自殺対策 ～復興公営住宅への移行期における心のケアを考える～」 講師：兵庫教育大学大学院学校教育研究科 岩井圭司 氏 対象：地域において被災者支援にかかわる者

(4) マネジメント

1) 仙台市震災後心のケア行動指針の策定

平成 24 年度より作成に取りかかった仙台市震災後心のケア行動指針について、平成 25 年 5 月に策定した。行動指針は平成 24 年度から平成 32 年度までを 3 年ずつ 3 期に、対象者を「健康～自己回復可能群」「不安定群」「ハイリスク群」に分け、各々、①普及啓発、②相談、③人材育成、④マネジメント、⑤連絡調整、の領域において取り組むべきことを定めている。今後は、この行動指針を元に、各区・支所、当センターにて震災後の心のケアに関連する事業の進捗管理をしていく。

2) 仙台市災害時地域精神保健福祉ガイドライン改定に向けた取り組み

平成 20 年に作成した本ガイドラインについて、東日本大震災の経験をふまえ、中長期的な支援に対応できるものとするために改訂作業に取り掛かった。現行の 7 分冊を、3 分冊(①一般市民対象、②内部職員対象、③外部職員対象)にする予定であり、平成 26 年度完成を予定している。

IV 資料

仙台市精神保健福祉総合センターの沿革・施設概要

1. 沿革

- 昭和 27 年 ベビーホーム（小児精神衛生相談所）設置
- 昭和 31 年 精神衛生相談所に改組
- 昭和 58 年 デイケアセンター開設（精神衛生相談所廃止）
- 平成 9 年 精神保健福祉総合センター開設

2. 施設概要

(1) 設置

- 1) 施設設置主体及び運営 仙台市
- 2) 名称及び所在地 仙台市精神保健福祉総合センター（はあとぼーと仙台）
仙台市青葉区荒巻字三居沢 1 番地 6
- 3) 施設開設日 昭和 58 年 4 月 1 日（平成 9 年 4 月 1 日 仙台市精神保健福祉総合センターに改組）

(2) 施設の規模及び構造

- 1) 敷地面積（市有地） 5,492 m²
- 2) 建物面積 延 1,474 m²、別棟陶芸室 39.69 m²、その他倉庫・車庫 12 m²
- 3) 建物構造 本館鉄筋コンクリート一部 2 階建
- 4) 全天候型テニスコート 1,221 m²（うちテニスコート部分 715 m² 運動広場 294 m²）

(3) 施設配置図

